

平成 28 年度事業報告

社会福祉法人ゆうかり学園

1、評議員会・理事会の開催状況

本年度は、下記のとおり評議員会及び理事会を開催した。

第一回評議員会 平成 28 年 5 月 27 日（金）

評議員 13 名中 13 名出席

第一号議案 平成 27 年度事業報告（案）審議の件について

第二号議案 平成 27 年度決算報告（案）審議の件について

第三号議案 監事監査の件について

第四号議案 平成 28 年度第一次補正予算（案）審議の件について

第五号議案 その他の件について

報告事項 ①久留米市障害者基幹相談支援センター公募プロポーザル参加申込みについて

第一回理事会 平成 28 年 5 月 27 日（金）

理事 6 名中 6 名出席 監事 2 名中 2 名出席

第一号議案 平成 27 年度事業報告（案）審議の件

第二号議案 平成 27 年度決算報告（案）審議の件について

第三号議案 監事監査報告の件について

第四号議案 平成 28 年度第一次補正予算（案）審議の件について

第五号議案 社会福祉ゆうかり学園監事監査規程（案）及び昇格・昇給に関する規則改正（案）について

第六号議案 湯布院保養所「一洗庵」被災の件について

第七号議案 その他の件

①久留米市障害者基幹相談支援センター公募プロポーザル参加申込みについて

第二回評議員会 平成 28 年 6 月 22 日（水）

評議員 13 名中 10 名出席

- 第一号議案 社会福祉法人ゆうかり学園定款変更申請書（案）審議の件について
- 第二号議案 社会福祉法人ゆうかり学園経理規程改正（案）審議の件について
- 第三号議案 基幹相談支援センター当初予算書（案）及びゆうかり医療療育センター第二次補正予算書（案）審議の件について

第二回理事会 平成 28 年 6 月 22 日（水）

理事 6 名中 6 名出席 監事 2 名中 2 名出席

- 第一号議案 社会福祉法人ゆうかり学園定款変更申請（案）審議の件について
- 第二号議案 社会福祉法人ゆうかり学園経理規程改正（案）審議の件について
- 第三号議案 基幹相談支援センター当初予算書（案）及びゆうかり医療療育センター第二次補正予算書（案）審議の件について

第三回評議員会 平成 28 年 12 月 9 日（金）

評議員 13 名中 13 名出席

- 第一号議案 平成 28 年度補正予算書（案）審議の件について
- 第二号議案 福祉医療機構借入担保物件の変更について
- 第三号議案 就業規則等の改正等について
- イ) 医師給与支給規程（案）
 - ロ) 就業規則改正（案）
 - ハ) 育児・介護休業規程改正（案）
 - ニ) セクシャルハラスメント防止規程（案）
 - ホ) 定年後継続雇用の高年齢者に関する無期転換
 ルールの特例申請について（第二種計画認定申請）
 - ヘ) 給与規程改正（案）
- 第四号議案 社会福祉施設整備協議書（平成 28 年度防犯対策強化に係る整備事業）提出について
- 第五号議案 株式会社みのうへの基本財産（土地）一部売却について
- 第六号議案 久留米市田主丸町財産区「河童の森、森林吸収プロジ

- 第七号議案 エクト」について
- 第八号議案 人事院勧告の件について
- 第九号議案 行政監査結果報告の件について
- 第十号議案 社会福祉法人制度改革に係る一連の経過及び今後について

第三回理事会 平成 28 年 12 月 9 日（金）

理事 6 名中 6 名出席 監事 2 名中 2 名出席

- 第一号議案 平成 28 年度補正予算（案）審議の件について
- 第二号議案 福祉医療機構借入担保物件の変更について
- 第三号議案 就業規則等の改正等について
 - イ）医師給与支給規程（案）【新設】
 - ロ）就業規則改正（案）
 - ハ）育児・介護休業規程改正（案）【労基法改正による】
 - ニ）セクシャルハラスメント防止規程（案）【新設】
 - ホ）定年後継続雇用の高年齢者に関する無期転換
 ルールの特例申請について（第二種計画認定申請）
 - ヘ）給与規程改正（案）
- 第四号議案 社会福祉施設整備協議書（平成 28 年度防犯対策強化に係る整備事業）提出について
- 第五号議案 株式会社みのうへの基本財産（土地）一部売却について
- 第六号議案 久留米市田主丸町財産区「河童の森、森林吸収プロジェクト」について
- 第七号議案 人事院勧告の件について
- 第八号議案 行政監査結果報告の件について
- 第九号議案 社会福祉法人制度改革に係る一連の経過及び今後について【報告事項】
- 第十号議案 その他の件について

第四回評議員会 平成 29 年 2 月 14 日（火）

評議員 13 名中 11 名出席

- 第一号議案 社会福祉法人ゆうかり学園定款の全部改正について（案）
- 第二号議案 社会福祉法人ゆうかり学園評議員選任・解任委員会設

- 置運営規程の制定について（案）
- 第三号議案 社会福祉法人ゆうかり学園役員等報酬規程の制定について（案）
- 第四号議案 社会福祉法人ゆうかり学園役職員旅費支給規程等の改正について（案）
- イ）役職員旅費支給規程改正（案）
- ロ）私有車業務上使用規程改正（案）
- 第五号議案 監査等指導内容及び改善報告について
- 第六号議案 平成 27 年度決算書の追加承認事項審議の件について
- 第七号議案 平成 28 年度久留米市社会福祉施設等施設整備事業(平成 28 年度防犯対策強化に係る整備事業)の補助金交付申請について
- 第八号議案 その他の件
- 【報告事項】湯布院別荘（一洗庵）り災に伴う固定資産税等の減免手続きについて

第四回理事会 平成 29 年 2 月 14 日（火）

理事 6 名中 5 名出席 監事 2 名中 2 名出席

- 第一号議案 社会福祉法人ゆうかり学園定款の全部改正について（案）
- 第二号議案 社会福祉法人ゆうかり学園評議員選任・解任委員会設置運営規程の制定について（案）
- 第三号議案 社会福祉法人ゆうかり学園役員等報酬規程の制定について（案）
- 第四号議案 社会福祉法人ゆうかり学園役職員旅費支給規程等の改正について（案）
- 第五号議案 社会福祉法人ゆうかり学園評議員選任・解任委員会委員の選任について（案）
- 第六号議案 社会福祉法人ゆうかり学園評議員選任候補者の推薦について（案）
- 第七号議案 監査等指導内容及び改善報告について
- 第八号議案 平成 27 年度決算書の追加承認事項審議の件について
- 第九号議案 平成 28 年度久留米市社会福祉施設等施設整備事業(平成 28 年度防犯対策強化に係る整備事業)の補助金交付申請について

第十号議案 その他の件

【報告事項】湯布院別荘（一洗庵）り災に伴う固定資産税等の減免手続きについて

第五回評議員会 平成 29 年 3 月 29 日（水）

評議員 13 名中 12 名出席

第一号議案 平成 28 年度最終補正予算（案）審議の件

第二号議案 平成 29 年度事業計画（案）審議の件

第三号議案 平成 29 年度当初予算（案）審議の件

第四号議案 基本財産処分承認申請書の提出について

第五号議案 定款変更（案）審議の件

第六号議案 社会福祉法人制度改革に伴う後任理事の選出について

第七号議案 新評議員への委嘱について

第五回理事会 平成 29 年 3 月 29 日（水）

理事 6 名中 6 名出席 監事 2 名中 2 名出席

第一号議案 平成 28 年度最終補正予算書（案）審議の件について

第二号議案 平成 29 年度事業計画（案）審議の件について

第三号議案 平成 29 年度当初予算（案）審議の件について

第四号議案 調剤薬局用地売買契約について

第五号議案 基本財産処分承認申請書の提出について

第六号議案 定款変更（案）審議の件について

第七号議案 平成 28 年度久留米市社会福祉施設等施設整備事業(障害者福祉関係) 補助金交付決定に伴う入札指名業者の選定について

第八号議案 就業規則改正（案）、給与規程改正（案）、昇給・昇格規程改正（案）、経理規程改正（案）審議の件について

第九号議案 役員賠償責任保険加入の件について

第十号議案 施設長等の契約更新について

第十一号議案 社会福祉法人制度改革に伴う後任理事の選出について

第十二号議案 平成 29 年度給食納入業者の選定について

第十三号議案 新評議員への委嘱について

第十四号議案 その他の件について

2、平成 28 年度心身障害児者の施設利用状況

ゆうかり医療療育センターの利用状況は、医療型障害児入所施設（定員 150 名）では延 10,427 名、一日平均 28.6 名、療養介護事業所（定員 150 名）では延 36,174 名、一日平均 99.1 名であった。入所率は 150 定員に対して 85.1%であった。短期入所では 23 名の利用があり、延利用日数は 493 回であった。一方、日中一時支援も 20 名の利用があり、延 453 回の利用があった。

コアラ園では、児童発達支援事業（定員 20 名）に対し延 2,651 名、一日平均 10.9 名が利用された。また、放課後等デイサービス事業（定員 10 名）では延 457 名、一日平均 1.9 名であった。保育所等訪問では延 18 名の利用があった。

耳納学園においては、施設入所支援（定員 34 名）に対し、延 11,315 名の利用があり、一日平均 31 名、充足率は 92.6%、就労継続支援 B 型（定員 40 名）では、年間作業参加実績延 7,031 名、定員から見た充足率は、72.2%、一日平均作業参加実績利用者数は 28.9 名であった。

千歳療護園の利用状況は、生活介護（定員 50 名）が延 10,963 名で 84.0%の充足率、施設入所支援（定員 40 名）は延 13,752 名で 94.1%の充足率であった。内訳は 8 名の利用者が延べ 800 日間の入院の他、外泊日数は延べ 162 日間となっており入院日数や外泊日数を除くと実利用者数は延べ 13,673 名で 99.4%の充足率であった。短期入所利用者は延 216 名、日中一時の利用はなかった。

第二千歳療護園の利用状況は、生活介護（定員 40 名）に対して延 10,455 名で 97.7%、施設入所支援（定員 40 名）は延 14,955 名で 102.3%の充足率である。内訳は 6 名の利用者が延べ 271 日間の入院の他、外泊日数は延べ 69 日間となっている。入院日数や外泊日数を除くと実利用者数は延べ 14,615 名で 97.7%の充足率であった。短期入所の利用者は延 63 名、日中一時の利用はなかった。

施設毎の事業報告の詳細は別紙の通りである。

3、改正社会福祉法等に関する事項

本年 4 月 1 日施行（一部は 28 年 4 月 1 日施行済）の改正社会福祉法については、主管課である久留米市障害者福祉課と協議、連携しながら対応してきた。平成 29 年 2 月 21 日定款変更認可申請書を久留米市へ提出し 3 月 28 日付にて認可を受けた。

新評議員の選出については、平成年 3 月 6 日評議員選任・解任委員会を開催した。委員会において審議・検討の結果、理事会案の通り新評議員選任の答申を得たので 3 月 29 日開催の理事会において、4 月 1 日付で新評議員を選任・委嘱した。また、4 月 1 日より新たな定例評議員会（本年 6 月末開催予

定)までの暫定理事についても同日開催の評議員会にて選任した。

今後は新たに社会福祉法人の役割（地域における公益的な取り組みを行う責務）、特別の利益供与の禁止に関する事項、事業運営の透明性の向上に関する事項等について、法人役職員等共々法の改正趣旨に鑑み粛々と進めて行くこととする。

4、社会福祉施設等施設整備事業

平成 28 年度久留米市社会福祉施設等施設整備事業として外部からの不審者の侵入に対する防犯体制を強化し、入所者等の安全を確保する目的で補助金申請を行った。整備予定内容は、防犯カメラ、センサーライト設置工事及び防犯フィルム納入で総事業費 3,167,856 円（市補助金 2,375,000 円、施設負担 792,856 円）である。

なお、29 年 4 月末頃決定の予定であり、決定を受け次第着工する。

5、賛助会員の状況

今年度の加入状況は個人会員 84 名及び 5 団体であった。盆踊り花火大会、運動会への案内及び広報紙（年 3 回発行）を送付した。

また、温泉利用者数は延 2,818 名、（前年度 3,438 名）一日平均 30.6 名であった。

6、利用者様のサービス向上に関する事項

苦情解決委員会をはじめとする各委員会活動を通じて、利用者様のサービスの向上、並びに職員の資質向上に努めた。

7、定例事業

(1) 盆踊り・花火大会の開催

恒例の盆踊り花火大会は本年度で 31 回目を数え、平成 28 年 7 月 21 日(木)、例年通り田主丸町植木農業協同組合、福岡県緑化センターを主会場として開催した。

危ぶまれた天候も当日には開催できるようになり、水縄小学校の水縄太鼓やエスクールのキッズダンス等の出演で盛り上がり、花火も年ごとに豪華になってきて、利用者様はもとより地域の皆様にも盆踊り花火大会を堪能していただいた。

(2) 運動会の開催

本年は平成 28 年 10 月 16 日（日）、昨年につき久留米市東部運動公園で、開催予定であったが、当日は無情の雨となり、止むを得ず中止とした。中止の場合に備えて、ゆうかり医療療育センターでは各寮毎にお楽しみ会として室内に変更して行う計画を立てていたが、感染症の関係でそれも出来ず残念な結果であった。千歳療護園・第二千歳療護園では施設内の食堂や廊下を使い、プログラムに添ってミニ運動会を実施した。最後には利用者・職員合同リレーで盛り上がり楽しい時間を過ごした。

耳納学園ではレクリエーションとして映写会を開催した。

(3) 韓国瑞林福祉院との職員交流研修事業

本年は 4 月 14 日の出国時に当法人より 5 名（団長：三重野貴文）が瑞林福祉院を訪れ 17 日まで有意義な交流研修を行った。なお、17 日から 20 日まで予定していた瑞林福祉院からの訪問は熊本地震により中止となった。

(4) 耳納学園展示即売会

第 10 回目となる恒例の展示即売会を本年度は 1 月 7 日（土）から 9 日（祝）まで『ゆめタウン久留米 ウェストコート』にて開催した。今までより 1 日少ない期間での展示即売会であったが、昨年と同じ売上が達成できた。

8、職員研修事業（園内）

- (1) 外部講師による人権研修
- (2) 新任職員研修

いずれも別添報告書の通り内容を進化させながら実施した。

9、委員会活動

苦情解決委員会はじめ各委員会活動を活発に行ってきた。各委員会からの報告は別添のとおりであった。

施設事業報告

- ゆうかり医療療育センター
- コアラ園
- 相談支援事業所 夢の紀
- 耳納学園
- 千歳療護園
- 第二千歳療護園
- 久留米市小児慢性特定疾病児童等自立支援事業
- 久留米市東部障害者基幹相談支援センター

ゆうかり医療療育センター

医療部診療課 外来

《概況》

外来受診者の中で、入所前診察者は重症化の傾向にある。

療育前診察は昨年と同様、自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動症、言語発達遅滞等の受診者が多く、1人あたりの診療時間は長く要している。

リハビリ実施計画書に基づく診察も行っていることから、診療予約日を早めに設定した。

千歳療護園・耳納学園入所者の診察もあり、スムーズに診察出来るよう情報収集を行い、医師との連携に心掛けた。

平成 28 年度 受診者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新患	25	37	33	33	22	20	24	23	20	53	27	47	364
再来	878	946	1,007	877	934	896	891	1,254 ※	926 ※	925	980	915	11,429

※インフルエンザ予防接種者を含む

- ・インフルエンザの流行時期は予防策として、外来者は受付で、マスク着用と必要に応じて体温測定を行い、症状のある時は、医師に報告し対応した。
- ・発達障害児の新患予約状況は、6ヵ月待ちの状況にある。
- ・各種の申請書類診察が、年々増加の傾向にある。
- ・入所者の重症化に伴い、外来でガス滅菌器を使用しているが、その頻度は増加し、準備時間とコストは増しているが、感染防止に欠くことはできない。

医療部診療課 エックス線

《概況》

レントゲン業務は変化しつつある。栄養チューブ確認や胃瘻造影、膀胱瘻のチューブ交換のための透視のみの手技なども加わってきた。整形外科の撮影は、利用者様の緊張の度合いもあり、正確に2方向は撮れないものの、CR装置を駆使し、良い画像が得られている。

平成28年度 エックス線撮影件数

一般撮影

(名)

月 病棟・外来	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
おひさま	34	32	29	28	33	27	32	41	27	20	24	32	359
なかよし	17	12	6	12	8	11	5	10	8	2	8	12	111
ともだち	8	13	15	7	13	11	9	8	13	16	11	9	133
外 来	22	24	22	23	19	13	38	27	79	35	21	16	339
計	81	81	72	70	73	62	84	86	127	73	64	69	942

CT

(名)

日 病棟・外来	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
おひさま	0	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	4
なかよし	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	5
ともだち	0	5	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	11
外 来	0	1	0	2	0	1	0	1	0	1	1	0	7
計	0	7	1	3	0	4	1	3	2	3	2	1	27

- ・12月は職員健診のために外来が増加した。
- ・おひさま寮、ともだち寮は、胃瘻造影が多かった。
- ・CT撮影に関しては、副鼻腔や胸腹部などが多くなっている。

医療部診療課 検査

《概況》

本年度は、利用者様の年 2 回の健診、職員の健診は年々増加している。(35 歳未満 71 名：夜勤者 107 名：その他 20 名) 1 月中旬からなかよし寮の利用者様をはじめ、職員の家族にインフルエンザ A・B 型、3 月下旬からなかよし寮の利用者をはじめ、職員にインフルエンザ B 型、千歳・耳納でもインフルエンザ A 型の感染がみられた。ノロウイルス胃腸炎については、職員にのみ罹患者がみられた。下痢原性大腸菌については、利用者様をはじめ、職員や就職時健診の職員にも感染あるいは保菌者が確認され、陰性になるまで検査を行った。

28 年	健診用検査			白血球数・CRP	血液生化学	検尿・検便	血液ガス分析	心電図	脳波	腹部超音波	迅速診断	外注検査
	6 カ月	誕生月	外部・入園時									
4	21	21	1	25	10	16	1	21	3	2	12	62
5	23	23	3	38	22	18	9	19	4	6	11	73
6	15	21	4	31	25	29	0	21	1	4	11	73
7	17	17	1	37	20	25	0	19	4	1	5	73
8	20	25	1	30	20	18	0	15	1	5	28	131
9	15	14	1	23	12	14	23	21	3	2	24	102
10	19	21	0	65	32	51	0	35	0	8	47	90
11	25	23	1	41	17	19	2	21	3	3	17	100
12	17	20	1	16	10	16	0	9	2	3	15	70
1	16	18	2	16	6	16	3	18	3	0	34	63
2	23	23	1	26	11	26	8	14	3	0	16	136
3	15	16	12	43	12	20	5	23	4	4	48	144
計	226	242	28	391	197	268	51	236	31	38	268	1117

《概況》

医師の処方箋に基づき調剤を行った。平成 28 年度の処方箋枚数及び調剤数については下表の通りである。

① 平成 28 年度受付処方箋枚数及び調剤数

外来（千歳、耳納、その他）・病棟（おひさま寮、なかよし寮、ともだち寮）

		外来						病棟					
		臨時		定期		注射		臨時		定期		注射	
月	日数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数
4	20	46	92	0	0	0	0	981	1,277	86	199	25	25
5	19	52	91	0	0	0	0	955	1,249	84	197	36	36
6	22	40	61	0	0	1	1	1,043	1,396	85	198	35	35
7	20	45	69	0	0	2	2	963	1,244	84	192	41	42
8	21	43	69	0	0	3	3	1,117	1,445	83	186	62	63
9	20	40	69	0	0	7	7	1,006	1,315	83	185	43	43
10	20	50	91	0	0	3	3	1,048	1,346	82	183	61	61
11	20	44	76	0	0	1	1	1,136	1,461	82	182	70	70
12	20	54	106	0	0	0	0	1,138	1,456	83	183	23	24
1	20	67	112	0	0	2	2	1,025	1,362	81	178	11	11
2	20	52	76	0	0	8	8	1,124	1,814	81	182	29	29
3	22	83	117	0	0	2	2	1,298	1,650	82	203	54	57
計	244	616	1,029	0	0	29	29	12,834	17,015	996	2,268	490	496

★吸入処方、外用剤でカウント

- ② 利用者の状態悪化による処方の増加傾向が進み、薬剤師 2 名での業務は限界にきている。入院の調剤量があまりに多大で捌けず、外来の院内処方の調剤を入院調剤終了まで待つか、院外処方での対応に協力をお願いした。

平成 28 年 3 月に軟膏ミキサーを導入し、業務の省力化の一助となったが、人員増が待たれる。

③ 薬事審査会開催

各科先生による新規採用医薬品の申請書提出に基づき審査を行った。

また、医薬品に関する安全性情報などの提供を行った。

④ 救急カート点検

急変時に必要となる注射薬の期限をチェックし、期限の切れたものについては随時交換を行った。

⑤ 院内感染症対策委員会参加

⑥ 医療安全対策委員会参加

⑦ 給食委員会への参加

臨床検査値の異常が投薬中の薬剤に起因するかいなかを、検討するとともに情報提供を行った。

- ⑧ 出張 平成 28 年 11 月 10 日 福岡県病院薬剤師研修会 参加
福岡県保健医療介護部薬務課、福岡県病院薬剤師会主催

医療部診療課 口腔衛生

平成 28 年度園内歯科受診者数 平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
Dr	88	73	106	81	72	62	71	56	78	72	73	84	916
D. H	227	235	284	249	218	212	171	152	171	195	210	190	2,514

Dr（歯科医師） D. H（歯科衛生士）

平成 28 年度外来受診者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
	24	21	56	26	20	24	28	19	27	23	25	27	320

- ・コアラ園利用者様の口腔検診実施（6 月）
- ・耳納学園利用者様の口腔検診実施（6 月）
- ・千歳療護園・第二千歳療護園において 3 月に予定していた口腔ケアの大切さの講義は感染症のため延期
- ・千歳療護園・第二千歳療護園利用者様においては、本年度より年間サイクルで園内歯科の受診を計画するとともに開始し、口腔疾患の治療と予防の成果に繋げていきたい。

看護部看護課

《概況》

多様化する利用者様に対して、一人ひとりの看護師、介護福祉士がそれぞれの立場で適切に対応できるよう、創造力・行動力・思考力を鍛えるため自己研鑽に励んだ。

准看護師 2 名が看護師国家試験に合格。看護師 2 名が日本重症心身障害福祉協会認定看護師に申請、1 名が研修中である。施設内においても研修委員を中心に、他職種も参加しやすい研修を開催、今後も継続していきたい。

* 委託入院	久留米大学病院	17 件	聖マリア病院	9 件
	田主丸中央病院	7 件	古賀病院 21	1 件
◆ 超重症児	5 名	◆ 準超重症児	5 名	
◆ 気管切開者	14 名	◆ 鼻腔カテーテル挿入者	10 名	
◆ 胃瘻チューブ挿入者	24 名	◆ 腎瘻、膀胱瘻	3 名	
* インフルエンザ予防接種				129 名
インフルエンザ A 型罹患者				2 名
B 型罹患者				5 名
* 短期入所者（延）				493 名
* 日中一時支援利用者（延）				455 名

<実習生受入数>

介護実習	福岡医療秘書専門学校	2 名
	精華女子短期大学	4 名
医学・看護学生	久留米大学医学部医学科	38 名
	久留米大学医学部看護学科	9 名
	昭和学園高等学校看護学科	56 名
	八女筑後看護専門学校	38 名
体験研修	新採用県職員	9 名
ボランティア		23 名

① 平成 28 年度 在籍者数 (月初日)

平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
医療	100	100	101	101	101	101	101	101	101	101	101	101
療養	28	27	29	30	29	28	27	28	29	28	29	29

② 平成 28 年度入退園者状況

平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
措置入園	1	2						1		1		1
退園	1			1	1	1						1
契約入園			1			1		1				1
退園	1				1				1		1	
転寮												

③ 平成 28 年度年齢別入所者数

平成 29 年 3 月 31 日現在

年齢(歳)	0～6	7～12	13～15	16～19	20～29	30～39	40 以上	計
措置	2	6	4	3	0	0	0	15
契約	1	2	3	10	12	26	62	116

【なかよし寮】

- 9 月下旬よりアデノウイルス感染症に利用者様 7 名罹患。職員の手洗い不足が原因として考えられた。この感染を期に、発熱による個別対応時はディスポエプロンを着用、スタッフ全員が携帯用ウエルパスを使用することにした。

1 月インフルエンザ A 型に 2 名が罹患、ハイリスク者 11 名にタミフルを予防投与、ディスポエプロン、マスク着用など感染対策徹底で集団発生に至らず終息した。

3 月 24 日よりインフルエンザ B 型に利用者様 1 名が罹患、同室者はタミフルの予防投与開始。罹患者が 3 名に増した時点でハイリスク者に対しても予防投与開始。職員も罹患のことから、利用者様全員に予防薬を投与した。その後も利用者様 2 名罹患、計 5 名と職員計 5 名の罹患で終息に至った。今回感染拡大の要因として、流涎の多い利用者様、全介助の利用者様の発生であったことが考えられる。

- 今年度は、5 名が他医療機関へ委託入院し、治療を要した。

利用者様の状態が高齢化・重症化している中、胃瘻造設 1 名、膀胱癌による

腎瘻造設1名と医療ケアを必要とする利用者様が増加傾向にある。また、今回膀胱癌の治療を積極的に行わないという家族と本人の意向により、ターミナルへの対応が課題となっている。今後も、今まで以上に健康状態の把握、個々のニーズに合ったサービスの提供が出来るように、努めていかなければならない。

- 短期入所利用者様は、新規、入浴目的が増加、週末や学校長期休暇中は空きがない状況である。
- 高等部卒業生2名、1名なかよし寮残留1名は退園後他施設へ転院。

【おひさま寮】

- 久留米大学小児外科の定期的な来園を通して、3名が手術を行い、今まで連携が無かった古賀病院21にも、田主丸中央病院を通じて1名入院手術を行った。
- 平成28年度は腎瘻造設者1名、胃瘻造設者2名、1名の利用者様が喉頭気管分離術、胃瘻、膀胱瘻造設術を行った。

また、呼吸器疾患、原疾患の再燃などにより、月に1~2名が委託入院となっている。

経管栄養者、人工呼吸器装着者、経口摂取者が肺炎で入院。疾患や加齢に伴い、経口摂取の在り方、食事形態、姿勢等も含め考えていかなければならないが、特に個別性に合わせた日頃の関わり方が重要になってきている。

また、特にリスクが高い呼吸器装着者、肺炎を繰り返す経管栄養者は、職種に関係なく全員で、異常の早期発見に努めていかなければならない。

- 感染症では、インフルエンザや、ノロウイルスの罹患者は無かったが、E S B L、MR S A保菌者に除菌を試みているが陰性化は困難で、多剤耐性緑膿菌などの保菌者もいることから、環境整備、一処置一手袋、手洗いの励行に努めている。
- 業務改善として前年度より引き続きケアの個別化を図るために、ユニットケア対応を看護部、育成部で協力しながら行っている。しかし、ユニットケアのメリット、デメリットを確認し改善が進んでないため、早急に改善を行う必要がある。

【ともだち寮】

- 胃瘻造設1名と、気管切開1名の入所があった。経管栄養者が6名となり、QC活動を通して、調乳室の環境改善を図り、業務がスムーズに行えるようにした。
- 感染症では、インフルエンザの感染者はなかった。ヒトメタニューモウイルス感染症が2名いたが、感染源は不明であり、早期の個別対応が拡大防止に繋がったと思われる。
- 深部静脈血栓症罹患者2名、内1名は肺塞栓を認め、入院治療となった。自

力運動が乏しい方や同一姿勢（車椅子での生活など）が影響しているものと考えられ、日常生活の改善を図っている。

病類別入所者数

平成 29 年 3 月 31 日現在

病 名		病 名	
脳性麻痺	69	染色体異常	5
低酸素性虚血性脳症	2	脊髄破裂後遺症	2
副腎白質ジストロフィー	2	マーシャルスミス症候群	1
脳損傷後遺症	1	先天性眼球欠損症	1
頭蓋内出血後遺症	2	二分脊椎	1
化膿性髄膜炎後遺症	2	レット症候群	3
左瘻性麻痺	1	急性脳症後遺症	1
滑脳症	2	インフルエンザ脳炎後遺症	1
重度知的障害	1	硬膜下出血後遺症	1
クラインフェルター症候群	1	頭蓋咽頭腫摘出術後状態	1
髄膜炎後遺症	1	猫鳴き症候群	1
ダウン症候群	3	乳幼児揺さぶられ症候群	1
右中頭蓋窩クモ膜胞	1	心肺停止蘇生後状態	1
麻疹脳炎後遺症	1	脳腫瘍手術後状態	1
脳炎後遺症	2	頭蓋骨早期頭蓋癒合	1
無酸素性脳症	2	頭部外傷後後遺症	1
水頭症	4	超低出生体重児	2
精神発達障害	3	水頭無脳症	1
MCT 変異による甲状腺ホルモン輸送障害	2	先天性筋緊張性ジストロフィー症	3
難治性てんかん	1		

計 132 名

<出張関係>

◆ 平成 28 年度強度行動障害支援者養成（基礎・実施）

4 月 24 日～26 日

看護師

1 名

◆ 第 65 回重度・重症児（者）医療・療育（基礎）講習会

5 月 9 日～13 日

看護師

1 名

◆ 平成 28 年度社会福祉施設役職員研修新任研修			
5 月 12 日～24 日	看護師	3 名	
	介護福祉士	2 名	
◆ 労務リスクマネジメントセミナー			
5 月 17 日	看護師	1 名	
◆ 平成 28 年度日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会			
5 月 19 日～20 日	看護師	1 名	
◆ 第 81 回重症障害児（者）・肢体不自由児看護師講習会			
6 月 14 日～17 日	看護師	1 名	
◆ 平成 28 年度第 1 回施設長会並びに施設長、職員研修会			
6 月 23 日～24 日	看護師	1 名	
◆ 平成 28 年度九州沖縄地区重症心身障害施設経営研究会			
7 月 12 日～15 日	看護師	2 名	
◆ 平成 28 年度福岡県相談支援従事者初任者研修			
7 月 13 日～14 日	看護師	2 名	
◆ 社会福祉施設における安全衛生管理説明会			
7 月 22 日	看護師	1 名	
◆ 第 61 回西日本肢体不自由児施設運営会議			
9 月 8 日～9 日	看護師	1 名	
◆ 平成 28 年度児童福祉施設新任職員研修会			
9 月 8 日	看護師	3 名	
	介護福祉士	2 名	
◆ 平成 28 年度九州身体障害児者施設研究会			
9 月 8 日～9 日	看護師	1 名	
◆ 第 48 回重症障害児（者）医療看護師講習会			
9 月 9 日～11 日	看護師	1 名	
◆ 医療ガス保安講習会			
9 月 13 日	看護師	1 名	
◆ 平成 28 年度全国重症心身障害児者施設職員研修会「看護師コース」			
9 月 14 日～16 日	看護師	1 名	
◆ 障害者福祉施設・高齢者施設における感染症予防研修会			
10 月 3 日	介護福祉士	1 名	
◆ 第 38 回看護管理者講習会			
11 月 8 日～11 日	看護師	1 名	
◆ 普通救命講習			

	11月 11日	介護福祉士	3名
◆	平成28年度福岡県強度行動障害支援者養成研修		
	4月 24日～26日	看護師	1名
	11月 14日	看護師	1名
◆	第37回日本重症心身障害福祉協会西日本施設協議会総会		
	11月 17日～18日	看護師	2名
◆	平成28年度全国重症心身障害児者施設職員研修会 「看護管理研究会コース」		
	11月30日～12月2日	看護師	1名
◆	第49回重症障害児（者）医療看護師講習会		
	1月 12日～14日	看護師	1名
◆	平成28年度ストレスマネジメント研修		
	1月 25日	看護師	1名
◆	平成28年度院内感染対策講習会		
	2月 8日～9日	看護師	1名
◆	平成28年度社会福祉施設役職員研修障害者施設・事業所職員研修		
	3月 14日	介護福祉士	1名
◆	平成28年度第2回施設長並びに施設長・職員研修会		
	3月 22日	介護福祉士	1名

《概況》

なかよし寮、おひさま寮、ともだち寮、それぞれの利用者様へ、個別支援計画に基づき、充実した毎日を過ごせるように、又利用者様一人ひとりのニーズに対応できるよう生活援助を心掛けた。自己決定の実現に向け、よりよいサービスと園内外の活動や季節毎の行事（花祭り、端午の節句、七夕、クリスマス会、節分、ひな祭りなど）、各種のレクリエーション、グループ活動、少人数による希望外出を計画実施した。

おひさま寮、ともだち寮では、それぞれの寮の利用者様の状態に適した場所を選択して、日帰りバス旅行（保護者様参加）を実施した。

法人全体の行事、7月の盆踊り・花火大会には、たくさんの利用者様が参加出来た。10月の大運動会は、天候不良により屋外での全体運動会は中止になったことから、急遽、それぞれの寮でのミニ運動会的なレクリエーションを実施した。

次年度は、3寮合同によるレクリエーション会（保護者参加型）、なかよし寮の日帰りバス旅行を計画実施の方向で検討する。

【なかよし寮】

今年度は、利用者様が充実した毎日を送れることを目標として、個別支援計画に基づき、個々の処遇が低下しないように、活気溢れる処遇を心掛け展開した。

学卒の利用者様には、全体的活動や個人的活動（個別活動【アレンジ教室、生花教室】・趣味活動【ゲーム、手芸、DVD鑑賞】・月1～2回の午前バス外出）などの内容を工夫して実施した。買物外出は、時間を短縮して回数を増加した。

就学児の登下校時の送迎時では、支援学校での出来事や、車窓から季節の変化を共有出来る様な会話を心掛けた。又、特別支援学校との連携を密にし、学業の向上と日常生活に必要な動作や精神的発達を促す取り組みを行ってきた。更に、土曜日の午後にドライブ外出を月に2回程度実施した。

（園外活動）

ゆめタウン久留米	5/ 2	（木）	2名
身体者体育大会	5/ 8	（日）	3名
ゆめタウン久留米	5/20	（金）	2名
ゆめタウン久留米	5/26	（木）	2名
ゆめタウン久留米	6/10	（金）	2名
ゆめタウン久留米	6/16	（木）	2名

ゆめタウン久留米	6/24 (金)	2名
ゆめタウン久留米	6/30 (木)	2名
ゆめタウン久留米	7/28 (木)	3名
ゆめタウン久留米	8/ 1 (月)	2名
ゆめタウン久留米	8/ 4 (木)	2名
ゆめタウン久留米	8/19 (金)	2名
ゆめタウン久留米	9/ 2 (金)	2名
ミュージックフェスティバル	2/ 5 (日)	4名
ゆめタウン久留米	3/13 (月)	2名
ゆめタウン久留米	3/16 (木)	2名
ゆめタウン久留米	3/24 (金)	3名

(園内活動)

花祭り	4/ 9 (土)	全員参加
端午の節句	5/ 7 (土)	全員参加
七夕	7/ 6 (土)	全員参加
茶話会	7/19 (金)	学卒
調理実習	8/ 4 (金)	4名
調理実習	8/23 (火)	5名
お楽しみ会	8/26 (金)	全員参加
クリスマス会	12/22 (水)	全員参加
クリスマス演芸会	12/26 (月)	全員参加
節分	2/ 4 (土)	全員参加
ひな祭り	3/ 4 (土)	全員参加
茶話会	3/17 (水)	学卒・卒業生
誕生会	第3土曜日	全員参加

(ボランティア・慰問)

アレンジ教室	毎週木曜日	希望者
生花教室	毎月第2火曜日	希望者
音楽教室	2~3ヵ月の第2金曜日	11名
理容ボランティア	1.5ヵ月毎	全員対象
K2 バンドコンサート	9/ 3 (土)	全員参加

【おひさま寮】

(生活援助)

本年度もおひさま寮では、ユニットケアを継続し、グループ活動、個別活動を各ユニットで実施した。ユニットケアを行うことで、個別支援計画に沿った活動ができるようになり、サービスの向上に繋がっていると思われる。また、経口摂取利用者様、注入利用者様の生活パターンにあった日課の検討を行い、ゆとりのある生活環境を整えた。今後も日課の見直しをして、利用者様一人一人が充実した生活が送れるよう考えて行く事が大切だと思われる。

療育活動では、午前をユニットでの活動とし、アロマを使用してのタッチケア、音楽活動、紙芝居、ゲーム、日光浴、短時間の散歩、製作物等を実施した。

午後の療育では、保育士が月刊カリキュラムを立案し、男女別の活動を行なった。レクリエーションの内容としては、感覚統合を主として、様々なゲームの導入、季節に沿った活動、利用者様と共に製作物をして、療育の充実に努めた。

幼児の利用者様については、保育士が午前中に週5回の保育を実施し、小さな変化を見逃さずに心身発達の支援、援助に努めた。

感染症に伴い、居室内での生活を余儀なくされている利用者様には、本人の体調に合わせて、療育活動を保育士が主として実施した。

個別の余暇活動では、意思表示の出来る利用者様には、意思の尊重を重視する対応をした。PCでのお手紙作成、DVD、CD鑑賞、お絵かき等のセッティングの援助をして、利用者様と共に楽しむ事に努めた。他利用者様につきましては、園内後見人で担当毎に活動を実施した。

各行事については、レクリエーションを取り入れ、職員で盛り上げて楽しい雰囲気の中で活動を実施した。

園外活動については、ドライブ外出を計画して、短時間ではあるが戸外に出て季節を感じる事ができた。3年に1回の日帰り旅行を、9月に実施しホテルでのレクリエーションや食事会等を提供した。

◎ 慰安・娯楽

(活動内容)

4月	花祭り	(全員参加)	ドライブ外出	(2名)
5月	端午の節句	(全員参加)	ドライブ外出	(6名)
			希望外出	(1名)
6月	ドライブ外出	(6名)		
7月	ドライブ外出	(8名)		
	七夕まつり	(全員参加)		

	盆踊り大会	(一部参加、不参加利用者様は病棟中庭にて花火鑑賞)
9月	日帰り旅行	(一部参加) ドライブ外出 (4名)
10月	運動会	(雨天中止にて病棟レクリエーション)
	ドライブ外出	(2名)
12月	クリスマス会	(全員参加) ドライブ外出 (2名)
2月	節分	(全員参加)
3月	ひな祭り	(全員参加) ドライブ外出 (8名)

◎ その他主な活動

- ・毎月第3水曜日誕生会(全員参加) ・集団レクリエーション(週2回)
- ・幼児保育(週5回) ・理容(月1回程度) ・音楽活動(日常的に)

【ともだち寮】

(生活援助)

現在の社会情勢として、弱者の人権が本当に擁護されているのか取り沙汰されている中、ともだち寮でも改めて一人一人の配慮が適切なのか、見直しの必要性を感じられ、日常生活において公平性を重んじ、より細やかな配慮に心がけてきた。

又、安全性が重視される中、生活面でマナー化が課題とされ、対応として職員の意識への配慮はもとより、支援プランの実現性を重視し、内容がより具体的に実施されていくことで、サービスの向上がはかられ、結果として人権擁護に繋がるよう勤めてきた。

(園外活動)

(1)	ドライブ外出(土曜PM)〔年間一人2回〕	各2名参加
(2)	久留米児童相談所管内交換大会 10/22	3名参加
(3)	身体障害者体育大会 5/8	4名参加
(4)	空港外出 8/22	2名参加
(5)	公園外出 5/19, 7/5, 10/4, 10/6, 11/7	10名参加
(6)	買い物外出 5/27, 8/23, 12/16, 1/20, 2/23, 3/21, 3/28	14名参加
(7)	カラオケ 8/26	4名参加
(8)	日帰り旅行 6/16	全員参加
(9)	いのちの博物館 7/28, 11/29	4名参加

(園内活動)

(1)	花祭り 4/6(水)	全員参加
-----	------------	------

(2) 端午の節句	5/11 (水)	全員参加
(3) 七夕	7/ 6 (水)	全員参加
(4) お楽しみ夕食会	9/28 (水)	全員参加
(5) クリスマス・プレゼント	12/21 (水)	全員参加
(6) クリスマスお楽しみ会	12/22 (木)	全員参加
(7) 節分	2/ 1 (水)	全員参加
(8) 雛祭り	3/ 1 (水)	全員参加
(9) 誕生会	毎月第三水曜日	全員参加
(10) グループ活動	月, 火, 木, 金 (午前)	4~6名参加
(11) 生花教室	毎月第四火曜日	4名参加

(生花教室メンバー11名～年間一人4回実施)

<実習生の受け入れ 3寮分>

・精華女子短期大学	16名	・中村学園大学	11名
・西九州大学	5名	・西南学院大学	1名
・西九州大学短期大学部	8名	・福岡こども短期大学	2名
・純真短期大学	9名	・久留米大学	7名
・香蘭女子短期大学	44名	・九州大谷短期大学	4名
・福岡女子短期大学	4名	・福岡女学院大学	7名
・筑紫女学園大学	8名	・福岡教育大学	2名

<出張関係>

H28. 4. 14~17	瑞林福祉院交流研修 韓国瑞林福祉院	育成員 1名
H28. 4. 18~20	平成 28 年度福岡県強度行動障害支援者養成研修 福岡市エイドケアカレッジ博多校	育成員 1名
H28. 4. 22	平成 28 年度 第 1 回児童福祉施設連絡協議会意見交換会 久留米市児童相談所	保育士 1名
H28. 4. 26	福岡県身体障害者施設協議会平成 28 年度第 1 回研修委員会 春日市クローバープラザ	育成員 1名
H28. 5. 11	平成 28 年度社会福祉施設 研修会新任職員研修 春日市クローバープラザ	育成員 1名
H28. 5. 23	平成 28 年度社会福祉施設 研修会新任職員研修 春日市クローバープラザ	育成員 2名
H28. 5. 31~6. 3	第 80 回重症障害児者療育職員講習会	

	東京都心身障害児総合医療療育センター	保育士 1 名
H28. 6. 23～24	福岡県身体障害者施設協議会第 1 回施設長・職員委員会 宗像市玄海ロイヤルホテル	育成員 2 名
H28. 7. 14・27	社会福祉施設役職員研修 基礎研修 春日市クローバープラザ	保育士 2 名
H28. 7. 13・25	社会福祉施設役職員研修 基礎研修 春日市クローバープラザ	育成員 1 名
H28. 9. 8	平成 28 年度児童福祉施設新任職員研修会 久留米市児童相談所	育成員 3 名
H28. 9. 8～9	平成 28 年度第 35 回九州身体障害児者施設研究大会 福岡市ホテルセントラーザ博多	育成員 1 名
H28. 9. 8～9	第 61 回西日本肢体不自由児施設運営研究会 沖縄県那覇市	育成員 1 名 保育士 1 名
H28. 9. 21	久留米市障害者支援施設等防犯対策研修会 久留米市山本町社会福祉法人悠光会『若葉』	育成員 1 名
H28. 9. 29	平成 28 年度福祉サービス苦情解決従事者研修会 春日市クローバープラザ	育成員 1 名
H28. 10. 5～7	平成 28 年度第 36 回全民連中堅職員研修会 長野県メルパルク長野	育成員 1 名
H28. 10. 27～28	平成 28 年度相談支援従事者初任者研修会 北九州市ウェルとばた	育成員 1 名 保育士 1 名
H28. 10. 28	防犯研修 大牟田文化会館	育成員 1 名
H28. 10. 28	SWE 支援ネットワーク会議 大刀洗町聖ヨゼフ園	育成員 2 名
H28. 11. 11	普通救命講習 うきは市総合福祉センター	育成員 1 名 保育士 1 名
H28. 11. 30 他 3 日間	福岡県相談支援従事者現任研修（更新者コース） 福岡市天神クリスタルビル	育成員 1 名
H28. 11. 24 他 4 日間	強度行動障害支援者養成研修【基礎研修・実践研修】 ゆうかり医療療育センター、久留米市教育センター	育成員 1 名
H28. 11. 24	防災講習会	

	久留米市水縄小学校体育館	育成員 1 名
H28. 12. 2	平成 27 年度第 3 回児童福祉施設連絡協議会意見交換会 久留米市	保育士 1 名
H28. 12. 7~9	重症心身障害児者施設職員研修会「保育士・児童指導員等コース」 大阪市山西福祉記念会館	保育士 1 名
H28. 12. 14 他 3 日間	2016 年度福岡県サービス管理責任者研修 春日市クローバープラザ	育成員 1 名 保育士 1 名
H28. 12. 14 他 2 日間	2016 年度福岡県児童発達支援管理責任者研修 春日市クローバープラザ	保育士 2 名
H29. 1. 18	福岡県身体障害者施設協議会 春日市クローバープラザ	育成員 1 名
H29. 2. 7	水害・土砂災害への備えに関する『要配慮者利用施設の管理者向け説明会』 朝倉市甘木ピーポート甘木	育成員 1 名
H29. 2. 14	平成 28 年度処遇記録研修（障害者分野） 春日市クローバープラザ	育成員 1 名
H29. 2. 20	障害者福祉サービス事業所直接処遇職員研修 福岡市博多区吉塚合同庁舎	育成員 1 名
H29. 3. 22	福岡県身体障害者施設協議会 第 2 回施設長・職員委員会 福岡市博多区九州ビル	育成員 1 名 保育士 1 名

《概況》

平成 28 年度は心理療育部として、一般生活援助業務との一部兼務で心理的援助活動を業務指針に基づき展開した。主な内容は、利用者の日常生活の観察、触れ合い並びに治療・検査場面を通じて心理的関係性をつくることである。また重症児・者に対しては、他領域との連携のもと心理的側面から、適正ポジショニング活動やタッチケア、「いい表情づくり」活動などを通じ、個としての尊重を基本として業務を行った。

地域支援としては、子どもの発達や母親の子育てなどの心理相談の要請に対し、市町村と連携・協力しながら、子育て・家族関係・就園・就学、そして発達についてなど心理支援を実施した。それに伴い、外来診察及びコアラ園利用案内さらに来所にての心理相談や外来での心理療育につなげるケースも増加した。保育所等への支援については、定期的な巡回相談が始まった地域においては、それ以前に比べ、小学校への就学委員会での保護者様と学校のよりよい共通理解が図られ、就学案内がスムーズになったとの好評価も得ている。さらに、その他の地域においても、個々の対象児ごとに必要に応じて療育場面の見学や関わり方の方向性などそれぞれの保育所等との情報交換もニーズに応じて行った。また、昨年度より、久留米市の親子のびのび教室（田主丸）と久留米市乳幼児健診（南部）が加わり、12 月よりうきは市すくすく発達相談の回数が増加した。今年度は、年 4 回の北筑後保健福祉環境事務所における乳幼児発達診査事業が再開された。

《心理療育・相談援助の内容》

「落ち着いているか」「安心しているか」を治療の基点として「人と関われるか」「関わりは適切か」さらに「楽しんでいるか」「喜んでいるか」との相互機能関係により個々のニーズに応じ、絵画表現療法、箱庭療法、抱っこ法・タッチケア、遊戯療法・行動療法、カウンセリング、感覚統合法、知育活動、音楽療法などを施行した。

心理的関わりの中で、寄りかけられる存在として、日常の触れ合い、遊び、介護、その他を通じての信頼関係作りが主要テーマである。

地域における相談活動においては、母子並行面接を基本として、限られた時間の中でいかに波長を合わせ、行動・状況の背景理解を図り、悩み・心配・不安に寄り添い、より具体的対応や共感的援助をしていけるかを目標に、心理判定並びに相談を行った。

【なかよし寮】

- ① 遊びを媒介とした自己表現（投影・情緒解放）
- ② 発達援助＝知育活動（情緒安定を基盤とした認知学習）・感覚運動
- ③ 面談援助 解決→解消（うなずく・聴く・心の汲み取り・共感・発散・個としての尊重）
- ④ 困った行動（表現として捉える）癖・攻撃・熱発・下痢・身体表現等の理解
- ⑤ 音楽療法（聴く・歌う・奏でる・踊る・合わせる・感じる）
- ⑥ 散歩（寮内・園内・園外）
- ⑦ タッチケア・マッサージ
- ⑧ 知能検査・発達検査
- ⑨ 自由訪室

【おひさま寮・ともだち寮】

- ① 多動・興奮行動への対応 散歩法 ―エネルギーの解放―
- ② 腹臥位を基点としたポジショニング（活動協働）
- ③ 面談（心のエントツそうじ・表出能力に応じた受けとめ）
- ④ 音楽療法（聴く・歌う・鳴らす・感じる）
- ⑤ 介護支援
- ⑥ タッチケア、絵本、絵カード、語りかけなど「いい表情づくり」活動
「集団の中での個としての尊重」
- ⑦ 知能検査・発達検査

【児童発達支援センター コアラ園】

- ① 発達支援（個別・集団）
- ② 遊戯療法（感情表現・認知発達・感覚運動調整）
- ③ 音楽療法（歌う、奏でる、踊る、合わせる、聴く 集団／個別）
- ④ 母親等へのカウンセリング（子どもの理解～プラス面へのスポットライト）
- ⑤ 行事（計画立案・実施）
- ⑥ 就学・就園（保育園等）相談援助
- ⑦ 知能検査・発達検査

【外来療育】

心理療育部における外来療育は、増加しつつある発達障害（自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動症、学習障害など）に対する心理的発達支援を行うと共に、心因反応としての神経性習癖（チック、吃音、緘黙など）や、不登校を含む子育て

不安などへの精神保健的相談・療育を行った。それらの中に、診察待ち期間の療育・相談、コアラ園の前段階としての外来での個別療育のケースなどを含めた多様な外来療育のニーズに対応させていただいている。

【耳納学園】

自己決定やプライバシーの尊重という立場から、今年度は業務展開はない。

《治療対象児・者》

日常の行動観察、生育歴、身体障害の程度、家庭環境などから、精神的サポートの必要性と質に応じて、下記人数に対し、定期的あるいは不定期的に行った。心理的対応の特殊性から、臨時・緊急の場合も多く、他職種との連携をもとに対応を行った。

※短期利用者を含む 単位：名

	なかよし	おひさま	ともだち	コアラ	耳 納	計
治療対象児・者 ※	46	44	49	75	0	214

《音楽療法対象児・者》

入所においては表出能力に困難のある利用者を優先的に、必要性に応じて下記人数に対して行った。コアラ園・外来においては、医師の指示または保護者からの要望に応じて対応を行った。

単位：名

	なかよし	おひさま	ともだち	コアラ	外 来	計
音楽療法対象児・者	15	24	17	45	1	102

《心理検査》

知能検査と発達検査は定期的に行い、その他の検査、評価は必要に応じて行った。実施数は下記の通りである。

単位：名

	なかよし	おひさま	ともだち	コアラ	耳 納	外 来	地 域
発達検査	3	3	5	1	0	1	20
知能検査	0	0	2	21	0	16	68
性格検査	0	0	0	0	0	0	0

《地域支援》

地域支援事業は市町村の母子保健活動と連携して展開してきたが、保育所等とも情報交換・共通理解に努め、相互の子ども支援に有効に機能した。今後も地域の信頼に適確に応えていく事業展開を目指したい。

昨年度より、親子のびのび教室の新たな開催場所として、久留米市田主丸町も加わり、計6か所での支援を行った。うきは市保育所等巡回相談は、11施設を3ヵ月に1度、計4クールで訪問し、園児についての相談・直接的な観察・触れ合いの中で、子どもの行動の理解・対応についての検討を行った。

また、うきは市すくすく発達相談は、昨年度の12月より月1回の依頼があり、今年度もそのまま継続し、年12回行った。また、療育指導教室にぱんだグループが加わった。久留米市の南部地区の乳幼児健診は今年度より毎月の実施となり、試行的に土日の開催も継続して行われた。

朝倉市	1歳6ヵ月児健診		計12回 対象者403名うち相談者38名 別件19名		
	3歳児健診		計12回 対象者395名うち相談者68名 別件18名		
	朝倉・杷木健診		計6回 対象者93名うち相談者10名 別件10名		
	にこにこども相談		計6回 相談者27名		
	療育支援わいわい学級		計24回 参加児 延べ119名		
うきは市	1歳6ヵ月児健診		計5回 対象者295名うち相談者18名		
	3歳児健診		計6回 対象者315名うち相談者27名		
	すくすく発達相談		計12回 29名		
	療育指導教室(たまご・ひよこ・らっこ・ぱんだ)		計44回 参加児 延べ157名		
	保育所等巡回相談		計47回		
久留米市	田主丸町	1歳6ヵ月児健診		計4回 対象者83名うち相談者13名	
		3歳児健診		計4回 対象者79名うち相談者19名	
		ママパパ気持ち楽々相談		計2回 相談者6名	
	北野町	1歳6ヵ月児健診		計4回 対象者103名うち相談者17名	
		3歳児健診		計4回 対象者67名うち相談者15名	
		ママパパ気持ち楽々相談		計2回 相談者4名	
	三潁町	1歳6ヵ月児健診		計4回 対象者99名うち相談者23名	
		3歳児健診		計4回 対象者92名うち相談者18名	
		ママパパ気持ち楽々相談		計2回 相談者3名	
	城島町	1歳6ヵ月児健診		計4回 対象者90名うち相談者15名	
		3歳児健診		計4回 対象者65名うち相談者16名	
		ママパパ気持ち楽々相談		計2回 相談者4名	
	南部	1歳6ヵ月児健診		計6回 対象者147名うち相談者32名	
		3歳児健診		計6回 対象者138名うち相談者38名	
		ママパパ気持ち楽々相談		計2回 相談者5名	
	親子のびのび教室 (本庁/三潁/城島/南部/北野/田主丸)			計35回 参加児延べ164名	
	低出生体重児支援リトルにこにこ			計3回 参加児延べ28名	
	北筑後保健福祉環境事務所		乳幼児発達診査事業		計4回 相談者10名
	その他の相談対応		電話		11件
			メール		1件
来所			36件		
訪問			1件		
診察案内※		57名 (コアラ園利用案内初診・再診18名含む)			
コアラ園心理療育対象児数		21名	コアラ園心理療育回数	552回	
外来利用児総数		87名	外来心理療育回数	1261回	
情報提供書作成数(心理判定報告書含む)				82件	

※今年度より、年度内に診察に至った方のみ（年度内に診察の予約をした方は省く）を計上することとする。

<出張関係>

- ・平成 28 年度 久留米市乳幼児健康診査あり方検討会（9 月、3 月）
- ・第 11 回 ペアレントトレーニングリーダー養成講習会
- ・平成 28 年度 臨床心理学講座（WISC-IV講習会）

《概況》

医療療育部門における訓練は、すべて医師の処方に基づき個別で実施し、診療報酬は脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）および運動器リハビリテーション料（Ⅰ）で算定請求した。入所部門において6月、9月、12月、3月、リハビリテーション総合実施計画書を作成した。計画書の説明や交付手順は郵送形式とし、返信用ハガキで同意の返事があった方について、リハビリテーション総合計画評価料を算定した。

コアラ・外来部門は、土曜日の利用者など診察の機会そのものが取れない方もいるため、リハビリテーション総合実施計画書の説明をセラピストが行い、その内容を主治医に確認していただき交付した。

毎月第2火曜日に医師、看護師、保育士、心理士、栄養士および訓練部（PT・OT・ST）のスタッフが出席して、リハビリテーションカンファレンスを開いている。感染症の影響もなく毎月1回、各寮の利用者様の個別のカンファレンスを実施した。

訓練は、利用者の潜在能力や可能性ならびにモチベーションなど多方面から対象児（者）のニーズを見極め、個別に計画を立てて行なうものである。特に、乳幼児期を担当するスタッフは、成長や発達全体を深く理解し、幅広く支援する能力が必要である。そこで、児童発達支援センター契約者に対しては、発達全体の手助けおよび保護者の指導を目的に、PT・OT・STが密に保護者とコミュニケーションがとれるよう集団でのリハビリテーションではなく、個別のリハビリテーションで対応した。

関節の拘縮や変形、異常筋緊張、呼吸問題など生活全般に問題を抱えている重度の障がい児（者）に対しては、独自の姿勢保持具を作製し活用するとともに、他部署の職員に対しても姿勢管理や移動・移乗・食事介助などの方法について、インシアチブを取りアプローチすることで利用者のQOLの向上につなげた。さらに摂食・嚥下機能に問題のある利用者に対しては、嚥下食を導入し、安全で楽しい食事時間の提供を行っている。

各部門の報告は以下に示す。

● 理学療法

【なかよし寮】

対象46～8名に対し、理学療法士が3～4名で個別に実施し、利用者1名当たりの訓練回数は週1～4回、年間訓練実施単位数は8,906単位であった。

対象児（者）を疾患別にみると脳性麻痺が最も多く、その他は脊椎破裂後遺症、

レット症候群、頭部外傷後遺症、筋ジストロフィー、マーシャルスミス症候群、精神運動遅滞などであり、他の疾患と重複する例が多い。

訓練内容は、個々のニーズやレベルに合わせた目標を設定し、基本動作訓練、移動能力訓練、筋力増強・持久力訓練、ROM 訓練、ADL 訓練などの運動療法を実施した。今年度も何度か感染症が流行したことから、定期的な実施が行えないこともあったが、概ね利用者の身体能力に大きな変化はなく経過している。

学童児への訓練としては、小学生などの年齢的に若い利用者は身体機能向上や移動動作獲得などを主として行ない、中・高等学校生に対しては卒園後を想定した訓練（ADL 訓練・買い物外出・園外活動）を提供することで、社会参加・自立に向けて意識を高め、卒園後の生活に順応できやすいように努めた。

学卒者への訓練は、身体機能の維持向上を図ると共に、屋外への外出や複数の利用者と合同で実施するなど固定したプログラムにならないように心掛けた。また、各利用者に車椅子や装具、姿勢保持器具などを随時検討、作製し環境面からの援助も行っている。

これらの個別・年代別に対応した訓練により、移動動作や排泄動作の向上・獲得がみられる例もあり、少しずつ成果が表れている。

今後は、他職種や特別支援学校とより連携を図ることでニードや問題点を的確につかみ、現状に合ったより良い訓練・療育を行なうよう心掛ける。

【おひさま寮】

対象 41 名に対し理学療法士 2～3 名で実施（4 月～7 月までは、理学療法士 3 名で対応）。年間訓練実施単位数は、7,970 単位であった。

対象児（者）は、重度の運動機能障がいおよび重度の知的障がいを重複している人が多く、加齢に伴う身体機能面の低下や筋緊張亢進など様々な原因により、非対称姿勢をとることが多く、変形・拘縮の要因となっている。また、日常生活は全介助の利用者が殆どであり、人工呼吸器や気管切開・胃瘻の方が増え、日常のリスク管理は非常に重要となっている。

訓練内容としては、変形・拘縮の予防や人工呼吸器や気管切開の利用者の呼吸状態安定を図るためなど ROMex を中心にマッサージ、リラクゼーション、ポジショニング、現在の機能維持・向上、排痰や呼吸介助（スクイーピング）などの理学療法を行った。また毎年 1 回、個人の身体機能面の評価として ROM の計測を OT と共に実施し、前年の数値と比較検討し利用者の生活に活かされるよう取り組んだ。

人工呼吸器、感染症の利用者は、居室から出る機会が少なく、活動範囲が狭くなる部分もあったが、人工呼吸器を装着した状態での車椅子移動や感染症利用者ができる活動範囲内で楽しみを見つけ実施した。

スタッフに対しては、利用者 40 名全員を対象に、他職種と情報交換をおこない協力しながら、姿勢ケアを促し、情報共有できるように寮内のカンファレンス時に利用者個別の車椅子姿勢やポジショニングなどについて説明を行った。また、個々にあったプロンキーパー・頭部保持クッションや側臥位保持用クッションを作製し、リラクセーション・排痰・側彎変形・拘縮の進行予防に努めた。学童児に対しては、運動機能や認知機能面の向上を目的に、特別支援学校の担任教諭と情報交換を行い、それによって、利用者一人ひとりにあった QOL 向上を心掛けた。

【ともだち寮】

利用者 45 名に対し理学療法士 2～3 名(内 1 名は外来・コアラ園と兼任)で行い、年間訓練実施単位数は 5,845 単位であった。今年度においては感染症が拡大することなく、各利用者ともに定期的に訓練を実施することができた。

利用者の疾病状況は脳性麻痺（および関連疾病の重複障がい者含む）71%、その他、化膿性髄膜炎後遺症、脳損傷後遺症、脳炎後遺症、視力障がい 29%となっている。

壮年期・中年期の利用者が多く、年々、四肢の関節可動域や筋力などの身体機能が低下する傾向にある。今年度は利用者の数名が深部静脈血栓症や中等度～重度の浮腫の発症、その他昨年度と同様に過ごされていた中での褥創・皮膚炎の発生(皮膚などの状態が低下した上での圧迫による)など、姿勢管理の重要性がより高まる 1 年であった。

リハビリテーションの内容は四肢の関節可動域運動やリラクセーション、歩行や車椅子駆動などの自力移動訓練を中心に行ない、ご自身での姿勢管理が困難な利用者に対しては車椅子上・ベッド上でのポジショニングを再検討し、それぞれの身体に適合するクッション作製や、褥瘡予防用具などの用意および車椅子の調整などに取り組んだ。

5 月に開催された身体障害者スポーツ大会においては、ともだち寮利用者 3 名が出場された。参加者は大会の数ヵ月～半年前から練習を開始され、生き生きとした表情で練習に取り組まれていた。その内 1 名には、出場するビーンバック投げ競技において、最も飛距離が出せる投げ方ができる車椅子の代車を用意した上で練習を重ね、金メダルを獲得された。今年度はともだち寮の参加者全員がメダルを獲得することができ、日常ではなかなか経験できないような達成感を得られたようであった。

● 作業療法

【なかよし寮】

対象者 44 名に対して、なかよし寮担当作業療法士 2 名(1 月より 1 名)が週 1～2

回個別で行い、年間訓練実施単位数は4,276単位であった。

対象児（者）の疾患は、脳性麻痺などの中枢性運動障がいを中心として、重度の運動機能障がいおよび重度の知的障がいの重複、精神運動遅滞、ダウン症候群、広汎性発達障がいなどである。

訓練内容は、身体機能面（特に上肢機能）の向上および維持を目的に、ROMex やリラクセーション、玩具や感覚遊び、作業活動を媒介としたアプローチを行なった。また、身の回りの動作の向上を目標に周辺環境の調整も行いながら、直接的かつ反復した取り組みを行った。

3 寮合同のグループ活動では、それぞれ特徴的な障がいがあるにも関わらずゲームや感覚遊びなどを行い、楽しみを共有・共感できる場として活用した。しかし、感染症の関係もあって、実施できない時期も多くみられた。

一部の学童児の利用者に対して、昨年度は自立支援を目的に園外活動（買い物）を行ったが、今年度は外来利用者の増加に伴い、園外活動の時間の確保が出来なくなっている状況である。

【おひさま寮】

対象41名に対し、作業療法士1名（11月より産休となり、11月～12月は兼任者で対応し、1月より新たに1名配属）が週1～2回個別で実施し、年間訓練実施単位数は3,301単位であった。対象児（者）は、重度の運動機能障がいや重度の知的障がいを重複した人が多く、視力障がいや嚥下障がい、加齢にともなう身体機能の低下や変形・拘縮など、それぞれ多岐多様な問題を抱えており症状も重度化している。また、人工呼吸器での呼吸管理や胃瘻の方が増えており、日常生活は全介助を要しリスク管理は非常に重要である。

訓練内容としては、身体機能の維持、日常生活動作（以下ADL）の改善、精神面の安定を目的に関節可動域訓練、ADL訓練（食事動作）、集団活動、感覚訓練（トランポリン、スイングなど）を行った。また、寮内での生活が中心となっている利用者に対し、他寮や屋外への散歩を行うことで、環境変化による感覚的な刺激を経験し、四季それぞれの季節感を感じてもらった。特に人工呼吸器、感染症の利用者は、居室から出る機会が少ない現状であったため、PT・STと合同で人工呼吸器をした状態での車椅子移動や感染症利用者の活動制限がある中でも可能な範囲内での楽しみ活動を実施した。

また、寮内での活動として、毎月その時期にちなんだ壁絵を作った。セラピストが介助しながらできる範囲で作業に参加してもらい、全員で一つの作品を作り上げ、居室や保護者との面会場所に展示した。

集団活動では、普段あまり関わることのない他寮の利用者と楽しみの共有を目的と

して、3 寮合同のグループ活動を実施した。今年度は感染症の関係で集団活動の時間は少なかったものの、トランポリンなどの感覚遊びやゲームをはじめ、水遊びなどの季節を感じることができる活動や製作活動など様々な活動を行うことができた。活動を通して、利用者同士の交流や楽しい雰囲気を味わうことができ、病棟ではみられない利用者の表情や反応を見ることができた。

【ともだち寮】

対象 45 名に対し、作業療法士 2 名で週 1～2 回実施し、年間訓練実施単位数は 6, 140 単位であった。対象児（者）の疾患は、脳性麻痺や水頭症、化膿性髄膜炎後遺症などの中枢神経系の異常による運動障がいおよび知的障がい、染色体異常などであった。年々、加齢に伴う身体機能の低下や変形・拘縮もあり、ADL 動作の低下が見られている。

訓練内容としては、身体機能や ADL 動作、認知機能の維持および向上、情緒の安定やリラクゼーションを目的に行なった。その手段として ROMex や ADLex（食事、更衣、整容）、感覚遊び、製作活動、集団活動などを用いた。

集団活動に関しては、今年度より保育士と共同して少人数のグループ活動を行った。内容は保育士が発案し、セラピストはフォローを行う形であったが、屋内外散歩や足湯、オイルマッサージなど多岐にわたった活動を行い、他職種との交流も深めることができた。また、例年実施している他寮利用者との OT 活動では、屋外散歩や水遊びなど季節に応じた感覚遊びや製作活動など様々な活動を行うことができ、普段あまり関わることのない他寮の利用者と楽しみを共有できた。

個別活動としては、一般道で電動車椅子を利用した買い物訓練や耳納学園に協力していただき、陶芸作品の製作活動など、個々のニーズに合わせた様々な活動を行い、利用者の楽しみや達成感、他者からの称賛、自己実現につなげてきた。また、園芸活動を複数の利用者と協力して行った。季節に合わせた農作物を育てる中で、季節を感じていただいた。さらに、製作活動として、画用紙を用いたこいのぼりやゆきだるま作りなどに取り組んだ。セラピストが介助しながら、できる範囲で作業に参加して、全員で一つの作品を作り上げた。できあがった作品を寮入口にある掲示板に飾ることで、保護者や職員に見てもらい、その感想などについての声掛けで、達成感を感じていただけた。

● 言語聴覚療法

【なかよし寮】

なかよし寮の利用者 45 名に対し、言語聴覚士 4 名（病棟と外来兼任 2 名、内 1 名は 10 月から産前休入り、コアラ外来との兼任 2 名）が必要に応じて週に約 1～4

回程度実施した。4名とも地域支援事業、児童発達支援センター(コアラ園)、外来と兼任であり、年間訓練実施単位数は3,578単位であった。

対象児(者)の疾患・障がいは、脳性麻痺などの中枢性運動障がいを中心となっているが、聴覚障がい、精神運動遅滞、ダウン症候群、自閉症スペクトラム障がい、先天性緊張性ジストロフィーなど幅広く、発達段階の程度も幅広かった。

重度の知的発達の遅れが見られる利用者に対しては、主にスキンシップ、歌遊び、音遊び、楽器遊び、絵本での読み聞かせなど、楽しくリラックスできる雰囲気の中で、聴覚、視覚、触覚などのさまざまな感覚を用いた関わりを行い、感覚・認知・コミュニケーション、理解面・表現力(表現方法)の発達を促した。

言語発達の遅れが見られる利用者に対しては、絵本、ままごと、歌遊び、お絵かきといった、遊びを中心とした学習の他に、絵カード課題やマッチング課題、かな文字課題といった机上課題も行いながら、言葉とコミュニケーションの成長を促した。

音声言語によるコミュニケーションが困難な利用者に対しては、コミュニケーションボード、絵カード交換式コミュニケーションシステム(PECS)、iPadの音声コミュニケーションアプリ、手話などの代替手段、視覚的手段、非言語的コミュニケーションの支援を行った。

麻痺による発声発語障がいや摂食・嚥下障がいが見られる利用者に対しては、アイスマッサージやバンゲード法などの筋刺激訓練、リラクゼーション、発声発語器官訓練、構音訓練、摂食嚥下訓練などを行った。

経鼻経管栄養から経口への移行途上の利用者には、段階的に食事の形態を上げつつ、様々な味や食感を経験してもらい、他のスタッフと情報交換を行いながら食べる意欲を育てる支援を行った。

食事場面や寮の摂食委員会、給食委員会では、看護・介護・育成・給食・PT・OTと、食事内容、食事量、食形態、介助法、姿勢、自助具など、利用者の食事に関して様々な課題を相談検討し、食事支援の改善を行った。

【おひさま寮】

必要性の高い対象者を中心に言語聴覚士1名で週1~3回個別に実施した。年間訓練実施単位数は2,998単位であった。

対象の病名・障がい名としては、脳性麻痺、精神(発達)遅滞などを中心とした身体障がいと知的障がいを併せ持つ重度の重複障がいである。

訓練内容は、口腔機能訓練(口腔とその周辺のケアや活性化を含む)、摂食・嚥下訓練、発声発語器官に対しての筋刺激訓練やマッサージ、ストレッチ、リラクゼーション、構音訓練、言語発達を促す訓練、コミュニケーション訓練、音声や音楽

を用いた聴覚的な刺激による訓練などを行った。

摂食に関しては、広く摂食・嚥下に関する器官に対しての感覚訓練、筋刺激訓練、マッサージ、ストレッチ、脱感作や味覚学習などの口腔内感覚の改善、食物を直接用いない間接嚥下訓練、摂食・嚥下機能そのものの維持・改善訓練、介助法の改善、食形態の調整、頸部や体幹の座位姿勢の調整、姿勢を安定させ筋緊張を緩和するためのクッションなどの調整、他職種に対して情報の伝達、食べ物に対する心理的拒否に対して安心して食べられるためのアプローチなどを行い、改めて経口摂取されている対象者の食事能力を評価した。また、これらを通じて摂食・嚥下機能の維持・向上を行い、安心して快適にスムーズに食事ができるための支援を行った。

おひさま寮の最重度の心身障がい児（者）に対して、リラックスした楽しい関わりの中で、心地のよい聴覚的・視覚的・身体的感覚などを充足させるアプローチを通して、心身が満たされ、ゆったりと落ち着くことができるような関わりを持ち、感覚・認知・理解面の成長も促した。

iPad やパソコンなどの機器を用いて、重度心身障がい児（者）でも楽しめ使用可能な機能を使って効果的に発達を促し生活の充実を目指した。

呼吸器系障がいに対しては、排痰、口腔内清掃やマッサージなどによる口腔内機能の活性化および表情筋の固縮の予防を行っている。呼吸器やその関連する器官の環境を整え、できる限り状態を改善して、穏やかに生活できるよう支援を行った。

【ともだち寮】

対象 30 名に対し言語聴覚士 2 名（6 月より 1 名）で、月に 1～2 回または、週に 1～2 回実施した。年間訓練実施単位数は 3,176 単位であった。

対象者は脳性まひ、MR、てんかんなど様々で、年齢も 10 代から 60 代と幅広い。

話すことが難しい利用者に対しては、コミュニケーションボードの練習やパソコンやスイッチの使用を行った。また、iPad やスイッチを使って自分で機器を操作して、主体的にコミュニケーションして、楽しく活動をする取り組みを行なった。さらにパソコン操作の訓練の一環として、インターネットで関心事を検索および動画を見るなどして余暇活動の充実を図った。

摂食・嚥下に関しては、食事の中で機能を引き出す訓練、介助法の改善、姿勢の調整、食形態の調整、使用する食器具の検討などを行った。特に経管栄養の利用者へは口腔機能の維持や唾液の誤嚥による誤嚥性肺炎予防のため、口腔ケアやマッサージ、嚥下反射を促す訓練などを行った。

音声言語面の訓練としては、構音訓練、会話や発声、唄を歌うことによる発声発語器官の運動による訓練などを行った。

『コアラ園及び外来』

● 理学療法

対象 67 名（契約利用者 8 名、外来利用者 58 名）に対し、外来担当理学療法士 1 名を中心に実施し、利用者 1 名当たりの訓練回数は週 1～2 回、年間訓練実施単位数は 3,767 単位であった。

対象児（者）は、脳性麻痺による重症心身障がいや肢体不自由児、精神運動発達遅滞、ダウン症候群、筋ジストロフィーなどとなっており、年齢も 1 歳未満の幼児から成人までと幅広い。

以下年代別に取り組みを報告する。

○乳幼児期から学童期

運動発達の促進や基本動作能力の獲得を目指し実施した。遊びの中で寝返る、座る、歩くといった基本動作能力の向上を図り、その一環として、必要に応じて自助具や姿勢保持用クッションの作製、福祉機器（ウォーカーや装具）の提案を行ない作製した。そのことで身体機能面の向上だけではなく、情緒面の発達および生活場面の中での自立を促した。また、保育所や保護者の協力を得て、自発的に移動する機会を作ることで、他者との交流および危険な場所を避けるなど、運動機能の向上だけでなく、言語面や認知面の向上にもつながった。

○学童期から青年期

運動機能の維持向上の他に、二次障がいの予防、介助者の介助量軽減などを個々のニーズに合わせた目標に応じ実施した。脳性麻痺児には継続的な運動能力向上はもとより ADL に必要な動作の練習や環境調整を保護者や支援学校・地域の小学校の先生と情報交換を行ないながら実施した。重症心身障がい児（者）においては、二次障がいによる脊柱の変形や運動機能の低下を経年的に評価する目的で、側彎の形態や下肢を中心に関節可動域の測定を適宜実施した。第二次成長期に伴い、脊柱の変形による側彎の進行や下肢の関節拘縮が認められる方が増えている状況である。家庭や地域施設で姿勢ケアが実施できるようにクッションを作製し、使用方法を指導したのちに提供している。身体機能面を維持し、介助量の軽減やレスパイトケアなどの福祉サービスの提供について、地域事業部の夢の紀のスタッフと連携を行なうなどの、多面的な支援も行った。

○耳納学園の利用者

運動能力の維持のため定期的なリハビリテーションを実施した。ADL 面を中心に取り組み、生活に必要な動作を取り入れ練習した。

● 作業療法

対象 145 名（契約利用者 54 名、外来利用者 91 名）に対し、作業療法士 2 名を中

心に訓練を実施した。利用者1名当たりの訓練回数は月1～4回、年間訓練実施単位数は6,343単位であった。

対象児（者）は発達障がい（自閉症スペクトラム障がい、注意欠如・多動症）、脳性麻痺、神経筋疾患、さらに精神運動発達遅滞など多岐にわたり、対象者も年々増加傾向である。

訓練内容は、トランポリンやボールプール、スイングなどの遊具遊び、縄跳びや鉄棒などの運動遊び、パズルや運筆活動などの机上活動、ままごとなどのやりとり遊びを通じて、こどもの発達課題（運動面・日常生活技能・学習基礎能力）や成功体験を通しての自己評価の向上など、個々の必要性に応じた取り組みを実施した。また、日常生活で配慮すべき点や介助方法などはもちろんのこと、保護者に対し我々スタッフも理解者としての立場を大切にしながら話を聞き、助言・アドバイスを行ってきた。

訓練場面以外でも日常生活で主となる保育園・幼稚園・学校の先生方との情報の交換および共有を行ない、お互いの療育に活かせるように努めた。さらに、小学校就学を控え通園部門を卒園される児童の進路に関わる各関係機関に情報提供を行い、卒園後の支援についての提案や意見交換にも取り組んだ。

● 言語聴覚療法

対象192名の外来利用者に対し、週1～2回、1回2単位(40分)を基本として、言語聴覚士2名を中心に訓練を実施した。年間訓練実施単位数は8,591単位であった。

対象児（者）は発達障がい(自閉症スペクトラム障がい、注意欠如・多動症、学習障がい)、言語発達遅滞、精神運動遅滞、構音障がい、脳性麻痺、ダウン症などの症候群、摂食・嚥下障がい、難聴、吃音と多岐に渡り、年齢も1歳の幼児から成人までと幅広い。近年は特に自閉症スペクトラム障がいを主とする利用者が増加傾向にある。

訓練において、観察や情報収集、各種検査結果をもとに評価し、訓練プログラムを立案し実施した。情報収集時には保護者だけでなく、保育園・幼稚園・学校の先生方とも情報交換を行い、療育に活かせるように努めた。

訓練内容は、利用者一人ひとりの状態に応じて、机上課題や遊びを中心とした課題などを選択し、言語面・コミュニケーション面の能力向上を目標に実施した。摂食訓練の際には、給食時間への介入、定期的な評価、訓練、指導を行なった。訓練場面だけでなく、就学後の定期的なフォローや、対象児（者）への接し方の指導、問題とされる行動が見られる理由の分析から環境調整のアドバイス、構音訓練の宿題の提供。また、利用者と共に保護者(支援者)の思いも受け止めるなど、日常生活場面においても、対象児（者）の成長につながるよう努めた。さらに、聴覚ス

クリーニング検査や、他医療機関との連携にも積極的に取り組んだ。

<地域支援事業等>

1. 肢体不自由児早期訓練事業（県肢体不自由児協会委託、飯塚市）
医師 1名・・・2回 PT、OT 各1名・・・22回 ST 1名・・・12回
2. 子どもの療育相談（上陽町）
OT 1名・・・12回
3. 乳幼児発達診査（県環境福祉事務所委託、朝倉市）
ST 1名・・・4回
4. 発達相談（朝倉市）
ST 1名・・・6回

<実習生の受入状況>

【理学療法士】

平成28年4月11日	～	6月18日	麻生リハビリテーション大学校	1名
5月9日	～	7月9日	柳川リハビリテーション学院	1名
5月9日	～	7月9日	熊本総合医療リハビリテーション学院	1名
6月13日	～	7月29日	西九州大学	1名
7月4日	～	9月10日	麻生リハビリテーション大学校	1名
7月25日	～	9月24日	熊本総合医療リハビリテーション学院	1名

【作業療法士】

平成28年8月1日	～	10月8日	麻生リハビリテーション大学校	1名
-----------	---	-------	----------------	----

施設見学

平成28年6月24日		麻生リハビリテーション大学校	昼間部	35名
平成28年7月1日		麻生リハビリテーション大学校	夜間部	20名

【言語聴覚士】

平成28年5月9日	～	7月1日	東京医薬専門学校	1名
7月4日	～	8月12日	メディカルカレッジ青照館	1名
7月11日	～	8月19日	柳川リハビリテーション学院	1名
平成29年3月10日			国際医療福祉大学	1名

地域事業部

《概況》

地域事業部は地域・社会からの多様なニーズや問い合わせに対し、法人内全事業所の機能紹介や利用手続き等の説明を行い、更に施設利用については当該者と法人内事業所間の調整や連携を図る目的で機能してきた。

地域・社会からの相談や問い合わせの内容は、入所や短期入所、日中一時預かりなどの施設利用目的のもの、児童発達支援センターや外来リハにつながる療育目的のもの、それらに付随する送迎支援や見学依頼であった。

対象地域は、久留米市、うきは市、朝倉市及びその近隣地域としているが、対象地域以外からの問い合わせも多数あった。

地域に出向き実施する在宅児支援は、地域事業部が担うタイムケア事業や心理療育部やコアラ園保育士など他部署と協働で取り組む久留米市、うきは市、朝倉市との委託契約による乳幼児健診での発達相談、その後のフォロー教室等も順調に遂行できた。

＜相談支援事業＞

地域事業部が受け付けた相談や問い合わせは次の表の通りで、多くはご本人様（ご家族）からの問い合わせであり、その他は地域の相談支援事業所や行政、医療機関からの問い合わせであった。また、相談から実際にゆうかりのサービス利用に繋がった件数も報告する。

相談内容	相談件数	利用につながった件数
① 施設入所支援について	29	6
② 短期入所・日中一時支援について	21	4
③ 児童発達支援について	21	6
④ 放課後等デイサービス利用について	4	1
⑤ 外来療育・リハの利用について	46	16
⑥ 見学依頼など	21	18
⑦ その他の相談	16	4

①施設入所については、29件の問い合わせに対して法人全体で6名の入所支援につながっている。施設入所に関する問い合わせは、その大多数が重症の成人の方や介護保険が適応されるような高齢の方が多い。療養介護や生活介護への入所を強く希望されるケースも多いが、いずれも満床状態で待機者リストにあげるにとどまっている現状である。

- ②短期入所や日中一時支援についての問い合わせも、重症の方や多動の方、衝動性のある方が多く、在宅での支援の難しい現実が感じとれる。また、呼吸管理の必要な方など重症児（者）の利用が件数的に困難な状態であり、今後の課題といえる。
- ③児童発達支援については利用を希望され契約まで至ったケースは6例で、28年度で受け付けてもまだ診察が行われていないため、今後増える可能性はある。例年、相談から実際の利用までかなり時間をかけている現状があるが、お試し利用やつなぎ療育などで少しでも早く療育につなげるよう療育現場では工夫している。
- ④放課後デイサービスは、15時以降は実施できているものの、希望の多い長期休み中や15時以前の利用が実施できていないことが課題で、利用をコアラ園へつなげたケースは1件にとどまっている。
- ⑤外来療育・リハについては、相談46件中16件が診察を経て訓練部や心理療育部の療育・リハにつなげているが、まだ診察が行われていないため今後増える可能性はある。
- ⑥見学依頼については、インフルエンザが心配される11月から2月の間、団体の見学を制限したり日程や見学ルートの変更はしたものの、ほぼすべての依頼に対応できた。
- ⑦その他の相談は、法人内事業所の受け入れ状況や利用手続き、計画相談、実習依頼、偏食の問題、DVに関する相談など、多岐にわたった。

<受診予約調整業務>

相談受け付けの後外来利用や診察を希望されたケースについては、外来や関係部署と連携をとりながら受診日予約及び事前の見学・説明等を行い、利用者にとって少しでも安心してスムーズな利用開始につなげるよう心掛けた。相談から受診までの期間が長期におよぶ点が課題である。

<短期入所予約調整業務>

平成28年9月より、短期入所及び日中一時預かりに関する予約受付と調整業務を地域事業部で行った。毎月、前月の10日までに利用予約を受け付け、15日までの間に調整会議を開き利用日を決定した。調整会議ではそれぞれの寮や利用日に偏りが出ないように努め、スムーズな利用が出来た。

<在宅支援業務>

地域事業部並びに夢の紀のスタッフを派遣した在宅児・者支援は、次の通りであった。

事業名	実施場所	回数
久留米市タイムケア事業	久留米市立屏水中学校	85
朝倉市療育支援事業わいわい学級	朝倉市ビーポート甘木	24

<施設見学案内>

地域事業部が平成 28 年度中に書面で受け付け案内した外部の組織・団体は、15 団体 304 名であった。団体の内訳は近隣地域の福祉関係団体が多く、ゆうかり学園の概要や業務内容を知りたいという目的、所属団体のフォローアップ研修の一環としたものが多かった。

見学方法は、施設の沿革や概要を説明し、学園紹介の DVD を視聴後、本館棟、ゆうかり医療療育センター3 寮、地域支援棟・コアラ園、調理環境、千歳療護園、第二千歳療護園、耳納学園の順で巡回・案内した。見学案内の時間は、概ね 2 時間ほどを要し、インフルエンザなどの感染症発生時は、案内区域を限定して対応した。

見学案内の詳細は、以下の通りである。

月	日	曜日	時間	団体名	人数
4	20	水	10:30~11:30	障害者支援施設蓮の実団地療育支援ワーカー	2
6	16	木	9:30~16:00	久留米市内保育園（特別支援保育研修グループ）	70
6	17	金	12:30~13:30	九州沖縄地区重症児施設医療事務担当者	40
6	28	火	10:00~11:30	うきは市山春地区民生委員・児童委員	6
7	11	月	14:30~16:00	久留米市竹野小学校 6 年生児童	4
8	29	月	10:00~12:00	福岡県立小郡特別支援学校職員	1
9	2	金	10:00~11:45	嘉麻市老人会女性部	20
9	6	火	10:00~12:00	北九州市小松地区社会福祉協議会	33
9	7	水	10:00~11:00	久留米市北野町中村区いきいきサロン「仲良し会」	10
10	18	火	10:00~12:00	久留米市協働推進部隣保館スタッフ	25
10	19	水	10:00~11:30	みやま市民生委員児童委員協議会	25
10	20	木	10:00~12:00	久留米人権擁護委員協議会	7
11	28	月	10:30~14:00	福岡県立粕屋新光園臨床心理士	1
3	7	火	10:00~12:00	久留米市母子寡婦福祉会	20
3	8	水	10:00~12:00	久留米市社会福祉協議会市民後見人候補者	40

<出張関係>

7 月 13~14、29 日、9 月 8~9 日	相談支援従事者研修	看護師	1 名
9 月 8~ 9 日	第 35 回九州障害児者施設研究大会	相談支援専門員	1 名
10 月 14、18、21 日	社会福祉士会人権研修ファシリテーター	相談支援専門員	1 名
12 月 8~ 9 日	九州相談支援事業所合同研修会	相談支援専門員	2 名

12月 1～2、15日	ふくおかライフレスキュー事業サポーター養成研修	相談支援専門員 1名
1月 26日	小児慢性児童自立支援情報交換会	相談支援専門員 1名
2月 25～26日、3月 11～12日	相談支援コーディネーター研修	相談支援専門員 1名

<その他>

- ・久留米市相談支援事業所連絡会（久留米市相談ネット）…11回
- ・久留米児童相談所管内交歓大会実行委員会…11回
- ・久留米市小児慢性特定疾病児童等自立支援事業関連会議…11回
- ・うきは市要保護児童策地域協議会実務者会議…4回
- ・うきは市地域障害者協議会…4回
- ・相談支援専門員勉強会…3回
- ・田主丸特別支援学校相談会…2回
- ・田主丸特別支援学校との連絡調整会議…2回
- ・7月 27日 田主丸特別支援学校地域支援研修会
- ・8月 8日～10日 田主丸特別支援学校職員の現場実習 1名受け入れ
- ・1月 19日 久留米市相談支援事業所集団指導
- ・1月 31日 久留米大学社会福祉士相談援助実習報告会
- ・3月 28日 精神保健福祉関係機関連携調整会議

給食部（中央給食）

給食部理念：栄養管理・健康管理に努め、真心のこもった調理で食の喜び、
大切さを伝える。

(1) 区分別熱量

ゆうかり医療療育センター、耳納学園、千歳療護園の区分別熱量に差があるので、
副食の量をそろえ、主食の量で調整している。

(単位 Kcal)

	ゆうかり	千歳	耳納	
			男	女
中			2,130	
A	2,400	2,000		
B	2,000	1,650	1,740	1,590
C	1,500	1,300		1,450
D	1,250			
E	1,050			

(2) 行事食

平成 28 年

- 4/ 7 千歳療護園開園記念日 弁当
- 4/ 9 耳納学園開園記念日 弁当
- 6/23 耳納学園夕食会 ソーメン、いなり寿司、デザート（メロンソーダ）
- 7/21 盆踊り大会
カレーライス、バナナ
模擬店（焼き鳥、たこ焼き、焼きそば、綿菓子、ジュース）
- 8/13 耳納学園一日レクリエーション 外注弁当
- 8/25 千歳療護園納涼祭 外注弁当
- 8/26 なかよし寮お楽しみ会
ハンバーグ、大根サラダ、デザート（アイス、フルーツ、ケーキ）
- 9/27 耳納学園夕食会 焼きそば、おにぎり、プリン
- 9/28 ともだち寮お楽しみ会 オムカレー、カルパッチョ、チヂミ、
ステーキ、わらびもち、フルーツ（巨峰、メロン、イチジク）
- 10/16 ゆうかり学園運動会 外注弁当
- 11/ 3 特別支援学校文化祭 弁当
御飯、焼き肉、ウインナー、酢の物、スパゲティ、トマト
コーンソテー、みかん
- 11/26 耳納学園 夕食会 ちゃんこ鍋

12/10 千歳療護園浮羽消防署指導避難訓練、餅つき慰問
餅（おろし餅、あん餅）おにぎり

12/14、15、16 コアラ園 クリスマス会
ローストチキン、エビフライ、ウインナー、
ブロッコリー、サニーレタス、ミニトマト、
ポテトサラダ、イチゴ、みかん
フライドポテト、サンドイッチ
コーンスープ、ケーキ

12/24 ゆうかり医療療育センター クリスマス会
オードブル、ステーキ盛り合わせ
ケンタッキーフライドチキン盛り合わせ、
フルーツ盛り合わせ、汁粉
ケーキ盛り合わせ
いなり寿司、おにぎり、おでん

(なかよし寮、ともだち寮)

茶わん蒸し、ポタージュ、ご飯(おひさま寮)

12/24 千歳療護園忘年会
おにぎり、いなりずし
フライドチキン、クリームコロッケ、お好み焼き、ミニハンバーグ、
テリーヌ他弁当形式
おつまみ、ケーキ盛り合わせ、ポタージュ、飲み物

12/24 耳納学園忘年会、餅つき（餡子、黄粉、おろし、醤油）
ケンタッキー盛り合わせ、エビフライ、ステーキ
スパゲティサラダ、カニの爪
サーモンマリネ、寿司盛り合わせ、フルーツ

平成 29 年

1/ 1 おせち料理 (昼)

がめ煮、干支かまぼこ、昆布巻、エビのつや煮、白花豆、伊達巻、紅白
なます、寿羊羹、手羽の照り焼き、あおさかに流し、さつま芋十二支、
パセリ、サニーレタス

1/ 7 七草の味噌汁

1/16 耳納、千歳 ぜんざい

1/21 耳納学園一日レクリエーション (喫茶)

ロールケーキ (ホワイトチョコ、チョコ)

2/18 耳納学園一日レクリエーション ラーメン、いなり

3/24 耳納学園夕食会 カレーライス、サラダ、アイス

(3) 研修関係

平成 28 年	5 月	特定給食施設等研修会	(久留米市)
	7 月	定例報告等説明会	(久留米市)
	8 月	特定給食施設等研修会	(久留米市)
	8 月	病院立ち入り検査説明会	(久留米市)
	9 月	西日本肢体不自由児施設運営研究会	(沖縄県)
	9 月	全国重症心身障害児施設職員研修会	(大阪市)
平成 29 年	1 月	ストレスマネジメント研修	(春日市)
	2 月	九障協研究大会	(沖縄県)
	3 月	重症児(者)食・栄養研究会	(北九州市)
	3 月	特定給食施設等研修会	(久留米市)
	3 月	地域活動栄養士等研修会	(久留米市)

(4) 実習生の受け入れ

6/20(月)～6/25(土)

久留米信愛女学院短期大学より栄養士 3 名

(5) 衛生管理

- ① 食品の納品時、品質のチェックと納品時間記入（冷蔵品は表面温度記入、冷凍・冷蔵品は収納庫の温度記入）
- ② 手洗い液（アルボース）による手洗いとウェルパスによる消毒の励行
- ③ 調理時、中心温度計にて中心温度測定、記入
- ④ 調理の出来上がり時間記入
- ⑤ 調理後、冷蔵庫に入れるものは入れた時間・温度記入
- ⑥ 調理器具やシンクの除菌にアルコール、バリアス 1（食品添加物除菌剤）使用
- ⑦ 冷蔵庫の清掃、温度記入
- ⑧ 調理室の温度・湿度記入
- ⑨ 検収室の温度記入
- ⑩ 盛りつけ時、使い捨て手袋、使い捨てマスク使用
- ⑪ 洗浄室、下処理室にて専用のエプロン、スリッパ使用
- ⑫ 水質検査 始業前、終業後に残留塩素測定（毎日）
業者による管理（毎月）

⑬ 細菌検査（検便）

腸管出血性大腸菌（O-157 他）を含む病原腸内細菌検査（毎月）

ノロウイルス抗原検査 10月、3月

⑭ 業者（トキワビル）によるネズミ・ゴキブリ駆除 毎月

(6) 給食委員会

ゆうかり学園

構成メンバー 所長、事務局長、看護部長、薬剤師
看護課、育成課、訓練課、給食部より代表者
園生代表者（ともだち寮2名、なかよし寮2名）

開催回数 月1回

耳納学園

構成メンバー 利用者様30名、厚生課2名、栄養士

開催回数 月1回

千歳療護園

構成メンバー 利用者4名、総務、医務、サポート係、
パートナー係、訓練、栄養士

開催回数 2ヵ月に1回

内容

各施設で構成メンバーは違うが、毎月の誕生会のメニューを決めたり、行事食の希望を出してもらったりしている。また行事食は、行事終了後に感想を出してもらって次回の参考にしている。形態についても、様々な部署の方を交えて検討ができる良い機会なので、今後もいろいろな方面からの意見を参考に、より良い食事形態を検討していきたいと思っている。

(8) まとめ

中央給食で大人から、幼児までの食事を提供している為、児童発達支援センターのコアラ園は、子供向けでないメニューの時には別メニューにして、献立表も別に出すようにしている。食形態について取り組みを行いソフト食の導入に向けて、ためしに夕食だけ提供して様子を見ている。今後の導入に向け、他部署との連携を取りながら、利用者が安全でおいしい食事を食べて頂けるように取り組みを続けていきたい。

	ゆうかり	千歳	耳納
4月	オムライス	カツカレー	から揚げ
5月	ステーキ丼	助六	焼肉丼
6月	ハンバーグ丼	うなぎ丼	鶏の竜田揚げ
7月	ちらし寿司	親子丼	牛塩丼
8月	すきやき丼	から揚げ	ロコモコ丼
9月	オムカレー	クリームコロッケ	ロコモコ丼
10月	牛丼	魚のあんかけ丼	焼肉丼
11月	ロコモコ丼	ウナギのかば焼き	カツ丼
12月	から揚げカレー	シチュウ	フライ
1月	オムライス	ちゃんこ鍋風	ビビンバ丼
2月	海鮮丼	天ぷら	チキン南蛮丼
3月	ステーキ丼	巻き寿司	海鮮丼

《概要》

本年度の新任職員研修は初めて3回に分け、3日間実施した。1回目（4月1日）では学園の組織や沿革、各部署の業部など入職にあたっての必要な内容で研修を行い、2回目（11月10日）では理事長講義、職員としての基本的な仕事の進め方について、3回目（3月1日）では入職以来の仕事の取り組みや進め方を振り返って現状把握、意見交換などするフォローアップ研修を行った。対象者は、1回目21名、2回目21名、3回目20名であった。

こもりぐま保育所

本園では、家庭に代わり子供達を預かり家庭内の温かさにより近づけるよう、愛情溢れたスキンシップの保育を目指してきた。健康で意欲的、創造的な心と身体を育成する目的で、戸外活動も取り入れており、自然に恵まれた環境の中、四季折々の果物・花・虫などと触れ合っている。また、毎年恒例のバス遠足と、月1回の買い物は、子供達が楽しみにしている行事のひとつである。

その他、個人の能力、年齢に合わせた生活習慣の習得を子供の発達状態をよく見極めて、無理なく個別指導をしている。そして、集団の中における協調性を遊びの中で養ってきた。

本園がまず何よりも、大切にしているのは家庭的雰囲気の中での保育である。そのためにも健康状態など、家庭との連絡を密に心掛けている。

【 平成28年度 利用児 】
延べ 427 人 開所日数 227 日 1日平均 1.9 名

【 バス遠足 (H28.12.9) 】
うみたまご

児童発達支援センター コアラ園

福祉型児童発達支援センターとして、3事業(①児童発達支援 ②放課後等デイサービス ③保育所等訪問支援)に取り組む。

① 児童発達支援

日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練等の便宜を付与することを目的とし、月曜日～金曜日の週5日に、「あそび教室」というかたちで、グループ療育及び個別療育を実施した。内容として、日常生活動作(食事・排泄・衣類着脱等)の獲得及び、小集団での行動獲得を基本療育とし、感覚あそび、知育あそび、歌あそび、製作、母子あそび、運動あそび、プール、戸外あそびなどのカリキュラムを、個々の成長段階に合わせて提供した。遊びを通しての楽しさ、自己表現、作品完成への自信や達成感を味わうことを大切にし、不快ではなく、快な状態を出来るだけ多く提供する事を心掛けながら進めていった。

また、母子関係の安定と充実に努め、そこから対人関係づくりへと発展出来るように配慮し、集団における社会性や協調性を伸ばすことも目的とした。

年間行事としては、

園内行事：親子レクリエーション(6/25(土)交流ホールにて32名参加)

母親講座(9/14(水)研修室にて13名参加 大滝Dr講師)

クリスマス会

(12/12(月)年少未満児10名参加・12/14(水)年長児12名参加・12/15(木)年少児16名参加・12/16(金)年中児15名参加)

卒園式(3/17(金)15名参加)

園外行事：お楽しみ活動として、電車に乗って久留米駅構内を見学するコースや、鳥類センター外出、コスモスパーク外出、ダイソーでの買い物などのコースを体験する(11/7(月)～11/11(金))

ゆうかり学園盆踊り花火大会(7/21(木)田主丸植木市場にて34名参加)などにも参加した。ゆうかり学園運動会は雨天中止となる(10/16(日)東部運動公園にて予定)。

また、月1回の避難訓練(10月は消防署員立会い)を実施し、避難誘導等の訓練を園児、保護者と共に体験した。

その他、就学を迎える園児の保護者に対し、特別支援学校、特別支援学級の見学案内を行うとともに、並行通園をしている保育園、幼稚園への情報提供書作成や園内見学等の受け入れも行った。また、出産を迎える母親に対してのサポート

として、単独通園を受け入れた。 地域へも出向き、久留米市、うきは市、朝倉市と連携をとりながら保育療育・子育てに関する相談業務を行い、地域支援、子育て支援を行った。

年間で75名の契約利用児を受け入れ、1日平均で約10～15名が利用する。

② 放課後等デイサービス

生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進その他の便宜を供与することを目的とし、月曜日～金曜日の週5日、15時～18時の時間帯で就学児を受け入れる。

田主丸特別支援学校の生徒6名（高校生1名、中学生2名、小学生3名）

久留米特別支援学校生徒2名（高校生1名、中学生1名）

うきは市立山春小学校生徒1名

計9名が年間で利用する。

③ 保育所等訪問支援

当該施設を訪問し、当該施設における障害児以外の児童との集団生活への適応のための専門的な支援その他の便宜を供与することを目的とし、年間で3名の利用あり。

朝倉市福田保育所 1名 6回訪問

朝倉市三奈木保育所 1名 5回訪問

久留米市日善幼稚園 1名 4回訪問

<学校見学案内>

	期 日	学 校 名	参加保護者数	参加園児
1	6/21(火)	うきは市立江南小学校特支学級	1	1
2	6/22(水)	朝倉市立福田小学校特支学級	1	1
3	6/24(金)	久留米市立田主丸小学校特支学級	1	0
4	6/24(金)PM	田主丸特別支援学校	1	0
5	6/28(火)	久留米市立金丸小学校特支学級	1	1
6	6/28(火)PM	久留米特別支援学校	4	4
7	6/29(水)	朝倉市立立石小学校特支学級	3	2
8	6/29(水)PM	小郡特別支援学校	1	1
9	7/ 1(金)	久留米市立水縄小学校特支学級	2	1
10	7/ 1(金)PM	久留米市立竹野小学校特支学級	1	1
11	7/ 4(月)	朝倉市立立石小学校特支学級	1	1
12	7/ 5(火)	久留米市立船越小学校特支学級	1	1
13	7/ 6(水)	久留米市立津福小学校特支学級	1	1
14	7/ 8(金)	朝倉市立三奈木小学校特支学級	1	1
15	7/12(火)	筑後特別支援学校	1	1
16	7/13(水)	朝倉市立杷木小学校特支学級	1	1
17	7/14(木)	久留米市立竹野小学校特支学級	1	1
18	9/20(火)	久留米市立青峰小学校特支学級	1	1

《心理検査》

発達検査	1
知能検査	21

上記の様に、必要に応じて発達検査並びに知能検査を行い、対象児の課題等を見
つけ出すと共に、今後の療育方針を決定する上での参考資料とした。

また、就学を迎える年長児への情報提供として実施した。

《通園児診断名》

診 断 名	該 当 児
構音障害	58
発達性協調運動障害	52
言語発達遅滞	52
自閉症スペクトラム障害	34
精神運動発達遅滞	26
運動発達遅滞	3
ダウン症候群	3
自閉症	3
摂食機能障害	1
注意欠陥多動性障害	1
知的障害	4
ピエール・ロバン症候群	1
染色体異常症	1
多動性障害	2
大脳萎縮	1
筋緊張低下症	3
右先天性難聴	1
左小眼球症	1
嚥下機能障害	1
CHARGE 症候群	1
歩行障害	1
筋力低下	1
未熟児網膜症	1
筋緊張亢進	2
難聴	1
契約児 75 名（診断名複数該当あり）	

<出張関係>

出張名	出張者	期 日	会 場
福岡県相談支援従事者 初任者研修	保育士 1名	H28. 10/27～10/28	ウェルとばた 北九州市
強度行動障害支援者 養成研修	保育士 1名	H28. 11/24～11/25 H28. 12/6・12/9	久留米市教育センター ・ゆうかり学園
社会福祉施設長資格認定講 習課程スクーリング (面接授業)	園長 1名	H28. 11/26～11/30	中央福祉学院 神奈川県
久留米市児童福祉施設 連絡協議会意見交換会	保育士 1名	H28. 12/2	久留米市
幼児通園療育 職員講習会	保育士 1名	H29. 1/23～1/27	心身障害児総合 医療療育センター 東京都
福岡県児童発達支援 管理責任者研修	保育士 1名	H29. 2/15～2/16	クローバープラザ 春日市

相談支援事業所 夢の紀

《概況》

法人内施設をはじめ、久留米市、朝倉市、うきは市等の障害福祉課、市内の他相談支援事業所並びにサービス事業所と連携し、相談対応を行いながら事業展開を行った。

【計画相談】

基本相談	地域事業部相談支援に記載
サービス等利用計画作成件数	263 件

- ・施設入所：191 件の計画相談の継続を行っている。3月に退園し独居に変更したケースが1件あり。
- ・在宅：前年度からの継続27件、新規の計画相談は35件であった。
- ・在宅利用者様で医療的ケアを必要とする重症心身障害児者の方については、日中一時や短期入所、訪問看護や居宅支援等におけるサービスの調整が困難なケースが多いため頻回な自宅訪問を必要としている。

＜基幹相談支援センターとの連携＞

今年度、久留米市より東部基幹相談支援センターを受託したことにより、基幹相談支援センターから依頼を受け、福祉サービスの必要な対象者に、計画相談を行った（4件）。また、長期入院されていた方の退院から地域への移行支援を行った（1件）。

＜小児慢性特定疾病児童等自立支援事業＞

久留米市保健所より小児慢性特定疾病自立支援事業をゆうかり医療療育センターにて受託したため、相談支援専門員が自立支援員として看護部長とともに、保健所における相談、ピアカウンセリングの開催を行った。小児慢性特定疾病の対象者の中にも福祉サービスの適応となる方がおられるため、計画相談につなげていく必要性を感じている。

＜他機関との連携＞

- ・法人内：家族面談や認定調査に同席し、情報収集やモニタリングを行った。また、短期入所の受け入れ方法を見直すことで、レスパイトの必要な家族やネグレクト

疑いの利用者に対して利用しやすい形態となってきた。

- ・各市町村障害福祉課やサービス事業所、地域における各協議会等：各種会議に参加し、情報交換を行うことで、地域で暮らす障害児者の生活の向上に努めた。今後も自己研鑽していく必要がある。

<出張及び参加会議>

- ・久留米市相談支援事業所連絡会<くるめ相談ネット>…11回
月1回 第3木曜日
- ・うきは市地域障害者協議会 相談部会
4月27日、6月22日、9月21日、2月10日
- ・久留米介護福祉サービス事業者連絡協議会研修～重症心身障害児・者とともに生きる
10月9日 重症児にとっての合理的配慮
1月29日 重症心身障害児・者の日常生活支援～姿勢や運動について 食事について
2月18日 重症心身障害児・者の日常生活支援～あそびとコミュニケーションについて
3月11日 医療を必要とする重い障害のある子たちを地域で支えていく上で大切なこと
- ・福岡県社会福祉士会 虐待対応チーム研修 7月2日、7月9日
- ・田主丸特別支援学校相談会
年3回 7月7日 12月14日 3月2日
- ・相談支援従事者初任者研修
7月13～14日、29日、9月8～9日
- ・久留米市基幹相談支援センター 研修会 7月25日
- ・久留米市医療ケア短期入所等支援体制整備事業
7月25日、10月25日、3月27日
- ・田主丸特別支援学校地域支援研修会 7月27日
- ・第35回九州身体障害児者施設研究大会
9月8日～9日 ホテルセントラーザ博多
- ・八女筑後・久留米圏域相談支援従事者研修会 9月15日
- ・福岡県社会福祉士会 虐待対応研修 伝達研修 10月1日
- ・福岡県障害者虐待防止・権利擁護研修 10月14日、18日、21日
- ・小児慢性特定疾病自立支援事業
10月19日～21日、11月14日～17日 相談支援

- 1月20日、2月7日 ピアカウンセリング
- ・九州地区障がい者相談支援事業合同研修
- 12月8日～9日 宮崎観光ホテル
- ・小児等在宅医療推進事業 小児在宅医療シンポジウム
- 1月15日 九州大学病院百年講堂
- ・久留米市相談支援事業所集団指導 1月19日
 - ・久留米大学社会福祉士相談援助実習報告会 1月31日
 - ・小児慢性児童自立支援情報交換会 1月26日
 - ・久留米市虐待防止シンポジウム 2月 5日
 - ・重症心身障害児者相談支援コーディネーター養成研修
- 2月25～26日、3月11～12日
- ・精神保健福祉関係機関連携調整会議 3月28日
 - ・久留米市相談支援専門員勉強会…3回 11月8日、22日、12月13日
 - ・田主丸特別支援学校との連絡調整会議…2回

耳 納 学 園

《概況》

昨年4月の熊本地震では甚大な被害がでて、自然災害の恐ろしさを身にしみて感じ、被災された方へ耳納学園からも支援物資を送り一日も早い復興を願った。又、7月には相模原市の障害者支援施設での殺傷事件が発生し、大きなショックと憤りを感じた。開かれた施設と施設内の保安をどのようにバランスをとっていかなければならないのか考えさせられる問題である。

作業面においては、毎年恒例の「ゆめタウンくるめ展示即売会」を今年は1月7日～1月9日までの3日間で開催した。今までより1日少ない期間での展示即売会であったが、法人職員の協力を得て昨年と同じ売上を達成することができた。

生活面では、耳納学園職員の不適切な行為が発覚し、利用者様保護者様へ経緯説明と今後の再発防止策について緊急の保護者会を開催した。再発防止策について参加者全員の承諾をいただき、早急を実施する事を報告させていただいた。

健康面では、心配されていた感染症の発生がなく、利用者様の日頃の感染予防にたいする意識が高かった事によるものと思われる。引き続き看護課・給食部で継続して取り組んでほしい。又、特定の利用者様よりの要望などが多くあり、その都度苦情解決担当職員が面談を行い、自治会長へ相談し早急に問題を解決している。

総務部

1) 本年度の各事業別利用状況

《施設入所支援》定員 34 名

年間延べ利用者数 11,315 名、充足率 92.6%、1日平均利用者数 31 名

《就労継続支援 B 型》定員 40 名（通所 6 名含む）

年間作業参加実績延べ利用者数 7,031 名、定員から見た充足率 72.2%、
1日平均作業参加実績利用者数 28.9 名

2) 本年度の地域別入退園状況は、別表（1）の通りである。

別表（1） 本年度の地域別入退園状況

入園状況 地域別	前年度末		入 園		退 園		本年度末	
	男	女	男	女	男	女	男	女
福岡市		1						1
久留米市	5	3					5	3
柳川市		4						4
朝倉市	2	1					2	1
大川市	1	1					1	1
小郡市		1						1
うきは市	1	1					1	1
大宰府市		1						1
新宮町		1						1
八女市	1	1					1	1
みやま市		1						1
上毛町	1						1	
東峰村	1						1	
唐津市	1						1	
武雄市	1						1	
佐賀白石町		1						1
計	14	17					14	17

厚生労働部

【就労支援課】

陶芸部門に於いては、利用者様の加齢による体力・巧緻性の低下がみられ、生産力の減退が現れるようになった。全体的に在庫高に大幅な減少が見られるようになったが、対応策として商品の生産はできる限り一度の機会にまとめて行うことや生地の外注により工程の短縮を図るといった改善の取り組みを実施した。こうした状況下において今後工賃向上を実現していくためには、今迄以上の出向販売や出張陶芸教室の受注拡大を図る等、ハイリターンの収益を考えていかなければならない。

工芸部門では、職業指導員が専任となり質の高い就労支援サービスを提供できた一年であった。作業場の和やかな雰囲気楽しさや安心感を育み意欲を高め、新商品のアイデアを出し合ったり制作の結果(出来栄)に対するフィードバックを皆で

行う土壌ができたのは大きな成果である。また、法人他施設からのニーズに応じて制服等縫製のサービスを開始、工賃へ還元する新たな収益を生み出した。

食品加工部門では、徹底した品質管理体制を堅持し、ユーザーに喜んで頂ける商品(焼肉のたれ)作りに努めた。この焼肉のたれは、発売以来、大好評で売れ行きは好調を維持しておりリピーターも多く着実にユーザーを増やしている。しかしながら、原材料(にんにく)の収穫が困難な時期に生産の休止を余儀なくされたこともあったため、安定した原材料の調達が課題といえる。

販売に関しては、出向、委託、受託(パン・クッキー類)、各種イベント等、幅広く実施、恒例の「ゆめタウン久留米展示即売会」は昨年より一日短い三日間であったが法人職員の協力もあり昨年と同等程度の売り上げ実績を上げることが出来た。尚、「まごころ製品大規模販売会(福岡三越)」の方は、日程の都合がつかず今回は出店を断念した。

本年度は通所部門に1月から1名の方が利用を開始され、陶芸班へ配属し受け入れている。

利用者様の機能低下が徐々に進みつつある中、重要になってくるのはやはり環境整備である。作業場で一人ひとりの身体状況に応じた無理のない安全な作業のやり方を適切に設定し見守りながら支援していく。サービスの根幹となる安心・安全確保に対して今後一層の配慮、注意が求められるところである。

1) 本年度の売上及び工賃支給状況は、別表(2)の通りである。

月	売上金額	工賃支給額
4月	923,313	300,690
5月	294,942	314,567
6月	1,427,338	313,758
7月	336,579	316,236
8月	350,699	314,254
9月	400,367	315,046
10月	360,727	312,114
11月	339,941	313,472
12月	300,801	310,095
1月	1,728,460	310,353
2月	176,572	461,120
3月	353,295	314,000
計	6,993,034	3,895,705

※ 本年度の工賃支給率は、55%

【厚生課】

今年度の行事関係では、保護者様をご案内しての一日レクリエーションを夏季自由帰省日の8月13日に実施した。保護者8家族10名の方が参加され、利用者様、保護者様、職員とで、「ペーパー綱引きゲーム」や「ボール集めゲーム」全員での「枕渡しゲーム」などを行い、今回も笑いのたえない楽しい時間を過ごすことができた。

恒例のボウリング大会を秋に開催し、利用者様21名が参加され5班に分け実施した。この日を楽しみにされておられる方も多く、ストライクをとろうと、投球の位置やコースなど工夫されていた。

生活面においては、12月に利用者様や保護者様の信頼を損なう新任職員の不適切な行為が発覚し、施設長より利用者様一人一人へおわびと、状況説明を話していただいた。1月3日に緊急保護者会を招集させていただき、利用者様20名保護者様11家族15名の方が参加された。施設長より今回の経緯と今後の再発防止に向けての説明があり、保護者様からの質疑応答後、再発防止策に対して参加された全員の承諾をもらい、早急を実施して行く事を利用者様へ報告させていただいた。

地域生活に向けて取り組んでおられた利用者様が3月に久留米市内のアパートへ入居し、念願の一人暮らしを実現された。

相談支援事業所や就労移行事業所・就労移行A型事業所・地域生活をサポートする事業所等の支援を受け4月より新生活が始まる。

他の利用者様の手本となるように頑張ってもらいたい。

利用者様からの要望等については、昨年と同様に特定の利用者様が、申し出される事が多く苦情解決担当職員が利用者様と面談して対応している。利用者様には、自分中心ではなく「相手を思いやる気持ち」「お互いさまの気持ち」を持って生活していただく事を自治会長を通して利用者様へ話をしてもらっている。

次年度は、職員の信頼回復に向けて気を引き締めて取り組んでいきたい。

1) 本年度の在園期間別人員数及び平均在園期間は、別表(3)の通りである。

別表(3) 入園期間別人員数及び平均入所期間

区分	1年未満	1～4年	5～9年	10～14年	15～19年	20年以上	計	平均
男	0	2	0	2	1	9	14	25年9ヵ月
女	0	2	2	2	2	9	17	23年4ヵ月
計	0	4	2	4	3	18	31	24年6ヵ月

2) 本年度の年齢区分別人員数及び平均年齢は、別表(4)の通りである。

別表(4) 年齢区分別人員数及び平均年齢

区分	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	計	平均
男	0	0	2	3	9	14	53歳4ヵ月
女	0	1	1	5	10	17	54歳2ヵ月
計	0	1	3	8	19	31	53歳8ヵ月

3) 本年度の主な実施事項は、別表(5)の通りである。

別表(5) 主な実施事項

月	日	行 事	月	日	行 事
4	21	開園記念行事	11	17	体験外出 ボウリング
5	8	第54回福岡県身体障害者体育大会(福岡市)	11	26	夕食会
5	31	体験外出(水族館)	12	1	体験外出 ボウリング
6	23	夕食会	12	6	体験外出 ボウリング
7	21	ゆうかり盆踊り大会	12	22	もちつき・忘年会
8	13	1日レクリエーション(保護者様参加)	1	19	1日レクリエーション(喫茶店)
9	27	夕食会	2	21	1日レクリエーション(ラーメンを食べよう)
11	1	体験外出 ボウリング	3	14	夕食会
11	8	体験外出 ボウリング			

4) 本年度実習生の受け入れ

介護等体験実習	(日本大学)	1名
介護等体験実習	(福岡教育大学)	1名
介護等体験実習	(九州共立大学)	1名
介護等体験実習	(久留米工業大学)	1名
介護等体験実習	(久留米大学)	1名
産業現場等実習	(日田支援学校)	1名

現場実習 (久留米特別支援学校) 2名
 保育実習 I (九州大谷短期大学) 2名

【看護課】

今年度は2名が蜂窩織炎の診断で、抗菌薬を投与され、2名が転倒による外傷で、縫合処置を受けた。昨年度と同じく、インフルエンザや感染性胃腸炎の発症はなかった。利用者様の加齢に伴う機能低下を考慮し、日常生活の維持と健康管理に努めている。

1) 月別受診人員数は別表(6)の通りである。

別表(6) 月別受診人員

月別 疾病別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
定期薬内服	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
呼吸器疾患	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	14
内科疾患	25	28	28	27	28	28	29	26	29	29	28	28	333
外傷性疾患	1	1	1	1	2	3	3	2	1	1	2	1	19
外科疾患	6	6	6	6	6	7	6	7	6	6	7	6	75
内科疾患	1	1	2	2	2	2	2	1	1	1	2	1	18
皮膚疾患	6	6	5	5	8	8	6	8	7	9	8	6	82
歯科	9	9	31	11	10	10	12	11	10	11	11	9	144
耳鼻科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
眼科	6	6	7	7	6	8	6	6	8	7	6	6	79
婦人科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
精神科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
入院	0	1	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	8
計	58	63	84	63	67	71	69	66	67	70	70	62	810

【28年度研修等出張記録】

期日(期間)	研修会名称	出張先	参加数
H27 4/9	第54回福岡県身体障害者体育大会 説明会	春日市	1
5/9, 20	県社協 新任職員研修	春日市	1
5/31	県社会就労センター協議会・セルフセンター 第1回施設長会	春日市	1
6/9	障害福祉サービス報酬改定等説明会	福岡市	1
6/15	28年度 集団指導	久留米市	1
6/22	就労支援部会見学会	うきは市	1
6/23, 24	平成28年度第1回施設長・職員研修会	宗像市	1
6/30, 7/1	日本福祉施設士会 第27回九州・沖縄 ブロックセミナー 福岡大会	福岡市	1
7/19	「まごころ製品」美味しいものグランプリ 2016 説明会	福岡市	1
8/22	理事長・代表者会議	福岡市	1
8/28	「まごころ製品」販売会説明会	福岡市	1
9/8, 9	第35回九州身体障害者施設研究大会	福岡市	2
9/21	うきは市地域障害者協議会就労支援部会	うきは市	1
10/3	障害者福祉施設 高齢者施設における 感染症予防研修会	久留米市	1
10/12	災害対策に関する説明会	うきは市	1
10/26	福岡県社会福祉大会	春日市	1
10/31, 11/1・2	九州授産施設(セルフ)研究大会	長崎市	2
11/10, 11	県社協 平成28年度リーダー養成研修	宇部市	1
11/22	28年度施設長・職員研修	福岡市	1
11/25~30	平成28年度 社会福祉施設長資格認定講習 会	神奈川県	1
12/2	応研 年末調整セミナー	福岡市	1
H29 1/20	平成28年度社会福祉改革に伴う会計 財務セミナー	福岡市	1
2/10	うきは市就労支援部会	小郡市	1
2/13	会計実務者決算講座	福岡市	1
2/16	県社協 処遇記録研修(障害者分野)	春日市	1
3/7	県社会就労協・セルフセンター 第2回施設長会・研修会	春日市	1
3/14	県社協障害者施設・事業所職員研修	春日市	1
3/17	久留米市障害者基幹相談センター 研修会	久留米市	1
3/22	県身障協第2回施設長会・職員研修会	福岡市	1

千歳療護園

《概況》

平成 28 年 4 月 14 日 21 時 26 分、熊本県益城町で震度 7 を観測した。また、16 日未明 1 時 25 分には同じく熊本県西原村と益城町にて震度 7 の本震が発生し、平成 7 年に発生した阪神・淡路大震災と同規模の地震がおきている。千歳療護園におけるハード面の被害は無かったものの、揺れの大きさに利用者様が動揺され、コールを頻繁に鳴らし、落ち着かれるまで時間を要した。熊本県内に於ける被害に遭われた障害者施設に対し、4 月 26 日に九州各地より支援物資、また、職員の派遣など熊本県障害者支援施設〔愛燐館〕を窓口とし、被災された利用者様に山鹿市のホテルへ温泉リフレッシュ支援を目的に、送迎付き添い等の支援を行った。5 月 1 日からは、南区城南町のくまむた荘の利用者様に、福岡県内の障害者支援施設職員と合同で直接介助・支援を目的とし、宿泊や日帰りにて人的支援を 6 月 30 日まで行った。

また、千歳療護園に於いては、熊本市の要請により日赤病院を利用されていた、障害のある被災された男性(21 歳)を緊急避難者として、平成 28 年 5 月 3 日～6 月 1 日まで受入れた。受入れ中は、日常生活の様子を、毎日熊本市福祉課へファクスにて報告した。

他に緊急避難者として、平成 29 年 1 月 6 日に久留米市北部障害者基幹相談支援センターより、障害のある男性の自宅が家事により焼失し、家に帰る事が出来ず千歳療護園で受けられないか相談があり、その日より、当園で緊急短期入所者として受入れた。

大きな事件としては平成 28 年 7 月 26 日未明、相模原市の知的障害者福祉施設で発生した、刃物による殺傷事件である。19 人の方が亡くなられ、26 人が重軽傷を負った悲惨な事件であった。犯人は元施設職員であり、利用者様を守るべき立場の人間が、この悲惨な事件を起こしたことに誰もが驚愕した。この事件により、法人を含め千歳療護園も新しく防犯対策委員会を設置し、外部からの侵入者に対して警察官による〔さすまた〕使用の講習や来園された方に分かりやすい様に〔名札ホルダー〕を付けてもらうなどして不審者と区別をするなど、また夜間ではビデオカメラ等による防犯対策を進めている。

利用者様の処遇面では、長期に入院されていた 2 名が胃ろう造設手術を経て、帰園された。1 名は経口摂取可能だが、もう 1 名は注入にて対応を行なった。胃ろう注入に関しては、看護課と連携を取りながら支援した。また、現場職員が胃ろう注入をするにあたり、看護師の指導のもと研修を行ない、実施状況報告書を作成し記入している。長期入院者の中には、誤嚥性肺炎にて入院されている利用者様が多く、

対策として夕食後の口腔ケアを重点的に行い口腔内残渣物を取り除く方法で誤嚥性肺炎の予防に取り組んでいる。

法人全体の行事としては、10月のゆうかり大運動会は雨天のため中止となったが、各施設室内にてそれぞれの競技を行なった。千歳療護園に於いても第二千歳療護園と合同にて、当日予定の競技を施設内で行なっている。

移転して3年目を迎え、新天地の生活に利用者様・職員も少しずつ慣れて来ている。今後も利用者様の生活環境整備を図り、より一層のサービス向上を目指し支援して行きたい。

総務部

<千歳療護園 経理・庶務課>

1. 本年度の各事業別利用状況

【施設入所支援：定員 40 名】

年間延べ利用者数 13,752 名 充足率 94.1%

【生活介護：定員 50 名】（通所 10 名含む）

年間延べ利用者数 10,963 名 充足率 84.0%

【短期入所：定員 2 名】

年間延べ利用者数 216 名

*熊本地震による緊急避難者 1 名（利用期間：5 月 3 日～6 月 1 日）及び、
自宅火災による緊急避難者 1 名（利用期間：1 月 6 日～3 月 31 日）を
受け入れた。

【日中一時支援】

利用なし

【入院・外泊者について】

8 名の利用者様が延べ 800 日間の入院、また外泊日数は延べ 162 日間となっており、入院日数や外泊日数を除く実利用者数は 13,673 名で 99.4%の充足率であった。利用者様が入院されると退院までの期間が長期化する傾向にある。尚、平成 29 年 3 月 31 日現在の入院者数は 0 名である。

2. 本年度の地域別入退園状況は別表（1）の通りである。

別表（1）本年度の地域別入退園状況

生活部 (1) 生活援助課

(パートナー係)

本年度も利用者様本位のサービス提供を基本に支援を行ってきた。その中でも「買い物外出に行きたい」との利用者様からのニーズが多く、誕生月の方を優先的に外出できるよう、昼食を兼ねた買い物外出(参加利用者数 12 名) 買い物のみの外出(参加利用者数 6 名) など外出対象利用者様の体調を考慮し、計画を立ててきた。また、個人的に外部のボランティア団体や有償ボランティアを利用し、外出を希望される方には、希望内容の聞き取り、電話連絡にて外出日の日程調整や持参金の準備などの代行業務を行った。その他、野球観戦や福岡県身体障害者スポーツ大会、ラグビー観戦など招待外出の仲介業務も取り組んでいる。

園内の活動として二つの働きかけを行ってきた。一つ目は、個々の利用者様のニーズの充実を図ることに重点を置き、日中活動計画を立ててきた。活動の内容としては、以前から取り組んできた、コミュニケーション会、塗り絵などの工作活動、カラオケ活動、DVD 視聴活動はそのまま残し、新たに「個別支援活動」を設け、個別支援計画の実施を担当職員が十分に取り組める時間を設置した。ユニットリーダーを中心に職員 2~3 名の 7 グループで構成し、活動グループ予定表の作成、業務割に担当職員の振り分けを行うなど、ケアプランの内容に沿って活動が行えるようにした。また、活動内容を他職員も共有できるよう、詰所に日中活動記録のファイルを作成、設置をしている。個別支援活動実施回数としては、平成 28 年 6 月~平成 29 年 3 月にかけて、各グループの個別活動は平均 18 回、月平均では 2 回、活動の時間を設けることが出来ている。この活動を通し、担当職員と利用者様との話し合える時間が出来、利用者様のニーズの実現や「園内の散歩がしたい」「趣味を見つけない」などの新たなニーズが上がってきており、さらに個別支援活動の時間を増やしてほしいとの要望も出てきている。

園内活動の二つ目として、レクリエーション活動などのイベント開催を行った。年間を通して、計 7 回実施し、イベント開催時には、ほとんどの利用者様が参加しており、運動も兼ねたレクリエーションや季節を取り入れるなど普段の活動とは違う雰囲気を出せるように計画を立てている。

その他、インターネットを利用した買物の仲介と支払い、受給者証、確定申告など行政への手続き代行業務、保護者への連絡書や小遣い帳複写書類の作成、死亡退園利用者様のご家族への遺留品、通帳残金受け渡しなどの事務的な業務も行っている。利用者様とは月 1 回の自治会役員の方との話し合い(暖和会)、月 1 回の職員との懇談会、利用者様の話し合いの場(ちとせ会)を通して、自主性・選択性・対等

性を尊重し、支援を行っていた。

昨年度より要望があがっていた、一泊旅行について計画思案中に熊本地震が発生し、宿泊先として候補に挙がっていた、法人所有の保養所が被害を受けてしまった。このことにより、一泊旅行計画が白紙となり、いまだ実現できていない状態である。今後の課題としては、一泊旅行の実現に向けての具体的な計画立案、日中活動内の個別支援活動時間の確保と活動内容の充実と季節に応じたイベントの開催など更なる活動内容充実に向け、取り組みを行いたいと考えている。

☆ 週生活表は別表（2）、年間実施行事は別表（3）の通りである。

（サポート係）

平成 28 年度の千歳療護園は生活介護 50 名（内入所 40 通所 10 名）短期入所 2 名で構成されており、死亡退園が 2 名、新規入所が 1 名あった。

4 月に発生した熊本地震にて多くの方が被災された。その中で被災した施設「障害者支援施設くまむた荘」での人的支援を主に迅速におこなった。施設は一部倒壊しており、その中での生活を余儀なくされている利用者様また、そこで働く職員の皆さんが復興に向け一日一日を頑張っておられる現状を目の当たりにし、私達はいかに良い環境で生活や仕事が出来ているのかを痛感させられ、派遣された職員も貴重な経験となった。また、熊本市福祉課からの要請にて日赤病院を利用されていた男性を緊急避難者として約 1 ヶ月間受け入れた。

生活面では、生活支援の更なる充実化と、生活支援員としての専門性の向上を図る目的として、ケース担当のユニットグループを男性 4 グループ、女性を 3 グループに分け、個別支援を積極的に行なった。その中でも日中活動委員会を中心に活動内容の見直しと計画を行い、マイクロバスによる花見外出やグループ毎に園周辺の散歩、足浴等の支援等を行い、利用者様に喜ばれる支援を実行してきた。

また、環境衛生委員会では花壇の整理に加え、目の行き届かない箇所の清掃や感染症等の対策ポスターの制作、掲示など計画的に行っている。

排泄時の同性介助の目的としたインカム導入については、100%の同性介助は実現できていないが、大きな成果を上げている。利用者様を待たせる事も少なくなっていることや業務での報告、連絡等の効率も上がっている。

利用者様の健康面では、加齢による機能低下や長期入院者が 3 名おられた。過去を振り返ってみると、誤嚥性肺炎での入院が多数を占めることから、その予策防として先ず口腔ケアに取り組んだ。

また、7 月には相模原障害者施設殺傷事件が発生した、このことにより更なる防犯意識の向上を目的とした防犯対策委員会を発足し千歳療護園から 1 名を任命した。

対策として、警察署員による「さすまた」を使用しての講習会に参加し、自己防衛技術を習得することにより、利用者様が安心して生活できるよう支援して行きたい。

今後も個人にあった介護技術と質の高いサービスの提供が重要だと感じている。

(2) 訓練援助課

千歳療護園では、男性 21 名、女性 19 名、計 40 名の利用者様に対し、理学療法士 1 名、機能訓練員 1 名(兼任)で、利用者様一人あたり 1 回 40 分の個別訓練を週 1~2 回実施した。

訓練の内容としては、利用者様の高齢化に伴い、残存機能の維持、体力・筋力の維持、関節可動域の維持を目的に行っている。具体的には、個別の能力に合わせた動作運動、筋力維持運動や関節可動域維持運動を行い、筋緊張の強い利用者様には、上田法の実施やバードチェアを使用してのリラクゼーションを行い筋緊張の緩和をはかり、身体の痛みを訴える利用者様には、ホットパックやマッサージを行い痛みの軽減が出来るように援助を行った。また、上肢の巧緻動作維持や座位保持の維持を目的に、パズルやスキルスクリーン等の作製を取り入れた。

個別にかかわることで、利用者様の話に傾聴し、気分転換に外に散歩に出かける等、ストレスの解消や情緒の安定をはかり、精神面から起きる機能低下防止にも心掛けた。

補装具全般の交付・修理申請手続きを行い、車椅子・電動車椅子・座位保持装置・下肢装具等の作製・修理にも携わっている。平成 28 年度では、車椅子の交付申請 1 件、修理申請 10 件、補装具の交付申請 1 件、修理申請 1 件、福祉用品の購入 10 件の手続きを行った。

(訓練内容)

- 関節可動域運動
- 基本動作運動(寝返り・起き上がり・立ち上がり・立位保持・歩行等)
- 姿勢保持運動(座位バランス・立位等)
- 日常生活動作運動(車椅子駆動・移乗動作等)
- 体力・筋力維持運動(腹筋・スクワット等)
- 巧緻動作運動(パズル・ひも通し・スキルスクリーン等)
- リラクゼーション(上田法・マッサージ・ホットパック等)

(3) 生活部相談援助課

《概況》

平成 28 年度は 4 月に発生した熊本地震により、熊本県と大分県地域に甚大な被害をもたらした。当園でも震災直後から支援物資の搬送、人的支援、リフレッシュ支援と東日本大震災の支援経験を生かし、迅速な取り組みを行った。

相談援助課は、両施設兼務での業務を継続した。一般生活援助業務（食事、入浴、排泄、移動等）で関わりを深めながら、利用者様お一人おひとりの一日の生活の流れ、身体面、精神面、対人面などを把握することに努めた。また、利用者様一人ひとりと個別活動や集団活動を通してコミュニケーションを図り、更なる信頼関係の構築にも努めた。

さらに、情緒の安定を目的として行ってきた読み聞かせの活動を継続し、前頭前野の活性化を図るためにカードのインプット等にも取り組んだ。

また、散歩をするには絶好の環境であるため、気分転換・ストレス解消・地域の多くの方との触れ合い等を目的に、敷地内や隣接の運動公園で活動を行った。

利用者様も個室生活に慣れてきたと思われるが、孤独感を感じさせないように各居室に出向いた折に、以前以上にコミュニケーションを密にとるような配慮も継続した。

(援助内容)

- ① 面談活動（カタルシス）
- ② 散歩療法（発散、リフレッシュ）
- ③ 表現療法（遊び活動、自己表現、生きがい、興味拡大、信頼関係）
- ④ ポジショニング（リラクゼーション、慢性痛の軽減、QOL の拡大等）
- ⑤ 前頭前野活性化法（読み聞かせ、公文カード、ドリル等）
- ⑥ 介護全般
- ⑦ メンタルヘルス（ドライブ外出、カウンセリング）
- ⑧ 環境整備、その他

(4) 生活部看護課

障害者支援施設に於いて、利用者様の高齢化に伴い障害の重度化・重複化・疾病の多様化により、園内で医療行為を必要とする利用者様が徐々に増加する傾向

にあり、協力病院との連携が必要不可欠な状況となっている。

利用者様の健康管理・衛生管理を行い、サービス向上に努めた。

《平成 28 年度》

① 委託入院
 田主丸中央病院 8 件
 聖マリア病院 1 件

② 医療ケア
 膀胱瘻 1 名
 経管栄養（胃瘻） 2 名
 皮下注射 1 名
 ストーマ 1 名
 吸入 1 名

③ インフルエンザ予防接種 38 名

④ 千歳療護園 年齢別入所者数 平成 29 年 3 月 31 日現在

年齢	30 歳未満	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	計
利用者	1	1	8	19	4	7	40
(%)	2	2	20	48	10	18	100

⑤ 千歳療護園 病類別入所者数 平成 29 年 3 月 31 日現在

病 名	人数	病 名	人数
脳性麻痺	32	脳脊髄膜炎	1
脳出血後遺症	1	脳挫傷	1
頭部外傷後遺症	1	クモ膜下出血後遺症	1
精神遅滞（重度）	1	脳血管障害	1
進行性ミオクローヌステんかん	1		

別表 (1)

地域別入退園者状況表

平成 28 度

	区分 福祉名	前年度末 人員	本年度 入所人員	本年度 退所人員	本年度末 人員	性別		備 考
						男	女	
町 村 福 祉 関 係	志 免 町	1			1		1	
	上 陽 町							
	大 木 町							
	大 和 町							
	那 珂 川 町							
	星 野 村							
	矢 部 村							
	苅 田 町							
	筑 前 町							
	福 智 町							
	小 計	1			1		1	
市 福 祉 関 係	福 岡 市	2		1	2		1	死亡退園
	北 九 州 市	3			3	2	1	
	大 牟 田 市	2			2	2		
	久 留 米 市	6	1		7	4	3	
	直 方 市							
	飯 塚 市							
	田 川 市	2			2		2	
	柳 川 市	5			5	2	3	
	宗 像 市	1			1	1		
	八 女 市	2			2	1	1	
	筑 後 市							
	大 川 市	4			4	1	3	
	小 郡 市							
	筑 紫 野 市	1			1	1		
	春 日 市	1			1		1	
	大 野 城 市							
	糸 島 市	1			1	1		
	山 田 市							
	行 橋 市							
	豊 前 市							
	中 間 市							
	古 賀 市							
う き は 市	4			4	2	2		
朝 倉 市	3	1		3	4			
み や ま 市	1			1	1			
福 津 市								
	小 計	38	2	1	39	22	17	
	日 田 市	1		1				死亡退園
	佐 賀 市							
	佐 賀 中 部							
	小 計	1	0	1	0	0	0	
合 計		40	2	2	40	22	18	

別表 (2)

週 生 活 表

千歳療護園

曜日	月	火	水	木	金	土	日
時間							
6:30	起床						
8:00	着替 ・ 洗面 ・ 移動 朝食						
9:00	移動 ・ 排泄 ・ 歯磨き (朝礼 ・ 申し送り) (寝具交換 ・ 掃除)						
9:30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	園長懇談会
10:30	訓練	訓練	訓練	外出	外出	【生花】	
11:00	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練		
12:00	昼食 移動 ・ 排泄 ・ 歯磨き						
13:30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	
14:00	訓練	訓練	定期診察 療育会議 外出	訓練	外出 ちとせ会 職員懇談会	訓練	
15:00	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練	
16:00			暖和会				
16:20	※ 入浴は、千歳と第二千歳を1ヶ月交代で午前と午後を入れ替えて実施						
17:00	夕食						
18:00	歯磨き (自立者一部)、後片付け、排泄						
19:00	着替え、自由時間						
20:00	歯磨き (介助者) 歯磨き (自立者)						
21:00	消 灯						
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 月 曜 日 コミュニケーション会 ○ 火 曜 日 利用者買物(隔週)、定期診察(男女月1回)、工作活動 ○ 水 曜 日 療育会議(外部講師・カンファレンス・園長講義)暖和会(第2週)、DVD視聴活動、個別支援活動 ○ 木 曜 日 ちとせ会・職員懇談会(第2週) カラオケ活動 ○ 金 曜 日 DVD視聴活動、個別支援活動 ○ 土 曜 日 生け花(第3週)、DVD視聴活動、個別支援活動 ○ 月 行 事 体重測定(第一日曜)、出張散髪(最終月曜日) 利用者と園長懇談会(最終日曜日) ○ レクリエーション活動(月1回) ○ 隔 月 防災教育、避難訓練、味彩クラブ(給食会議) 						

別表 (3)

年間実施行事記録表

平成 28 年度

月	日	行 事 等	月	日	行 事 等
4	7	開園記念日	10	16	園内運動会
	13	誕生者外出 (久留米ゆめタウン)		26	誕生者外出 (久留米ゆめタウン)
	21	誕生者外出 (久留米ゆめタウン)		27	誕生者外出 (久留米ゆめタウン)
	22	誕生者外出 (久留米ゆめタウン)		31	誕生者外出 (マックスバリュー)
	28	誕生者外出 (久留米ゆめタウン)			
5	8	障害者スポーツ大会 (博多の森)	11	9	誕生者外出 (久留米ゆめタウン)
	11	希望外出 (幸府園へ兄弟面会)		10	誕生者外出 (マックスバリュー)
	21	生け花		19	紅葉見学
	27	誕生者外出 (久留米ゆめタウン)		21	誕生者外出
	30	誕生者外出 (久留米ゆめタウン)		24	紅葉見学
6	9	誕生者外出 (久留米ゆめタウン)	12	17	生け花
	16	生け花		22	忘年会
	22	レクリエーション大会			
	23	ネイルボランティア			
7	8	ナイター観戦 (福岡ヤフオクドーム)	1	18	生け花
	16	生け花		26	誕生者外出
	21	ゆうかり盆踊り・花火大会			
	23	ネイルボランティア			
8	10	誕生者外出 (久留米ゆめタウン)	2	18	生け花
	18	誕生者外出 (久留米ゆめタウン)		23	誕生者外出
	24	誕生者外出 (久留米ゆめタウン)			
	25	納涼祭			
9	17	生け花	3	9	誕生者外出
	21	ナイター観戦 (福岡ヤフオクドーム)		10	誕生者外出
	28	誕生者外出 (工場見学、ユメマート)		18	生け花

(参) 実習生受け入れ状況

(平岡介護福祉)

実習期間	人数
5月9日～6月2日	2

(九州大谷短期大学)

実習期間	人数
11月24日～12月14日	2

* 介護等体験実習

大 学 名	実習期間	人数
九州産業大学	5日間	5
福岡教育大学	5日間	5
福岡大学	5日間	5
福岡大学	5日間	5
中村学園大学	5日間	5

◎ 延べ人数 85名

別表(4)

日常生活動作の介護状況

生活動作	区分	男	女	計
食 事	自 立	2	2	4
	一部介助	11	11	22
	全介助	7	6	13
起 坐	自 立	5	5	10
	一部介助	2	9	11
	全介助	14	5	19
立ち上がり	自 立	1	1	2
	一部介助	4	6	10
	全介助	16	12	28
排 泄	自 立	3	1	4
	一部介助	2	8	10
	全介助	16	10	26
更 衣	自 立	4	1	5
	一部介助	1	4	5
	全介助	16	14	30
入 浴	自 立	0	0	0
	一部介助	3	1	4
	全介助	18	18	36
歩 行	自 立	1	0	1
	一部介助	0	1	1
	全介助	20	18	38
寝返り	自 立	7	8	15
	一部介助	2	4	6
	全介助	12	7	19
車椅子使用	自 立	4	3	7
	一部介助	4	7	11
	全介助	12	8	20

生活動作	区分	男	女	計	
夜間処遇	排便排尿	1回	2	1	3
		2回	5	4	9
		3回	5	8	13
		4回	6	3	9
		小計	18	16	34
	服 薬	1回	13	10	23
		2回	4	7	11
		3回	0	0	0
		小計	17	17	34
	体位変換	1回	3	2	5
		2回	2	0	2
		3回	0	0	1
		6回	0	0	1
		小計	5	2	9
おむつ使用	昼・夜	0	1	1	
	夜間のみ	1	1	2	

- ・食事⇒配膳された状態で、魚の骨取りも含む。
- ・排泄⇒排泄後の処置、女性は生理処理も含む。
- ・更衣⇒ホックなど、着脱が行ない易く改良した衣類を使用して。
- ・入浴⇒一部自立とは、浴槽の中に独力で入っていることが出来たり、洗体の一部が出来る事。

障害者支援センター ちとせ

「障害者支援センターちとせ」は、障害者支援施設千歳療護園の通所による日中活動（生活介護）として事業を実施した。現在、久留米市、うきは市、朝倉市を事業実施地域としてサービスを提供している。

平成29年3月31日現在の、支援センター利用契約者様は18名で、内訳は下記の通りである。

久留米市	9名
うきは市	7名
朝倉市	2名

※朝倉郡からの利用者様が1名医療行為を常時必要とし平成25年12月よりゆうかり医療療育センターを利用されている。支援センターとの契約はご家族様の意向もあり継続している。

今年度は、延べ 1,343名の方が利用され、1日平均5.5名の利用があった。内訳は下記の通りである。

久留米市	713名
うきは市	433名
朝倉市	197名

延べ利用人数は前年と比較すると74名の増となった。市町村別では減数となったのは久留米市の15名で、うきは市・朝倉市は、それぞれ51名、38名の増であった。

利用者様の状況として、東部支援基幹センター、夢の紀の情報提供また、管理課による送迎の協力もあり本年度初めは契約者様が14名であったが、年度途中に入所へ移行された方が1名、新規の契約者様は5名（久留米市2名 うきは市2名 朝倉市1名）になり利用増加につながった。現在18歳から78歳（男性9名女性9名）の方が利用している。

※痰吸引・経管栄養は基本研修・実地研修を終了した介護職員が、「特定の方」（1名）に対し利用者様（及びご家族様）の意向や必要に応じて看護職員と連携し実施している。実施状況は以下のとおりである。

・喀痰吸引は1名の利用者様に対し、それぞれ1回から2回実施。

☆障害支援区分、主たる起因疾患別年齢表は、別表(A)の通りである。

☆月別・市別利用者数表は、別表(B)の通りである。

活動においては、制作・創作活動（掲示物制作や季節の飾り物、習字など）や

誕生会、四季外出、個別的機能訓練、なぞなぞクイズやトランプなどを実施した。

毎年恒例となっている年賀貼り絵の制作は利用者様全員で綿棒と段ボールを使用して絵画作りを行った。完成した作品は、1月の耳納学園の展示即売会会場に展示、その後は支援センターの玄関に展示し利用者様にとって大きな励みとなった。

本年は、屋外や他施設との交流・散策が容易に行えること、また隣接する運動公園にも足を運ぶことができ利用者様の活動範囲が広がった。特に温泉での入浴時間を楽しみにされていて、これまで入浴をされていなかった利用者様も入浴をされるようになった。

外出行事（ドライブ外出や買い物、初詣、花見など）や法人の各行事（夏祭り運動会など）にも積極的に参加頂いた。

日中活動の支援内容

○身体介護 食事、入浴、排泄、移動、移乗介助

○創作的活動、文化的活動、社会適応訓練（個別活動・グループ活動）

<手工芸>

- 折り紙細工 花 小物 輪飾り
- 小物づくり 編み物 キーホルダー
- 造形 紙、布、ボタン、テープや毛糸、木の実など様々な材料を利用
- ジグソーパズルなど

<習字、読み、書き> 毛筆、読み書き練習、模写 作詞 詩

<制作> 貼り絵 自由画、ぬり絵、折り紙制作など

<外出> 見学、買い物、ドライブなど

○機能訓練

日常生活動作訓練、四肢他動・抵抗運動、器具運動、積み木、紐通しなど

○スポーツ、趣味娯楽活動

ポケネット、輪投げ、ナンバーストライク、 玉入れ、カラオケ、トランプ、オセロ、ジェンガ、ビー玉・おはじき、 合唱・楽器演奏、DVD鑑賞など

○更生相談

利用者様の要望や必要に応じて医療、福祉、介護等の相談を行っている。

別表 (A) 平成 27 年度

障害程度区分表

障害者支援センター ちとせ

年齢 \ 区分	2	3	4	5	6	計
20 歳未満					2	2
20～29			1		2	3
30～39						
40～49			1	1	2	4
50～59			2		1	3
60～64		1		1		2
65 歳以上		1	2		1	4
計		2	6	2	8	18

主たる病類年齢表

病名 \ 年齢	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	計
	脳性麻痺	脳血管障害	脊髄損傷	頭部外傷	特定疾病	特定疾患	リウマチ	進行性筋萎縮症	その他	
20 歳未満	2									2
20～39	1								2	3
40～64	2	1	1		1				4	9
65 歳以上	1	1					1		1	4
計	6	2	1		1		1		7	18

別表 (B) 平成 28 年度 月別・市別利用者数表

障害者支援センター ちとせ

月	利用 日数	利用 者数	1 日 平均	久留米市			うきは市			朝倉市		
				男	女	計	男	女	計	男	女	計
4	20	106	5.3	68	31	37	23	15	8	15	0	15
5	19	111	5.8	68	29	39	28	8	20	15	1	14
6	22	121	5.5	72	34	38	29	11	18	20	5	15
7	20	120	6	64	29	35	37	20	17	19	6	13
8	21	113	5.3	53	34	19	41	21	20	19	4	15
9	22	109	4.9	55	36	19	40	21	19	14	1	13
10	20	101	5	49	33	16	34	20	14	18	5	13
11	20	105	5.2	52	36	16	39	20	19	14	4	10
12	19	95	5	50	22	28	31	15	16	14	0	14
1	19	102	5.3	56	23	33	30	13	17	16	2	14
2	20	116	5.8	60	26	34	39	20	19	17	3	14
3	22	144	6.5	66	28	38	62	32	30	16	0	16
計	244	1,343	5.5	713	361	352	433	216	217	197	31	166

第二千歳療護園

《概況》

今年の3大ニュースは、一番に熊本地震が挙げられる。4月14日午後9時26分頃、熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード6.5の「前震」が発生。16日午前1時25分頃にはM7.3の「本震」が起き、いずれも最大で震度7を観測した。一連の地震活動で震度7を2回記録したのは観測史上初めて。その後も震度6強などの強い地震が断続的に発生し甚大な被害をもたらした。ゆうかり学園は全国からの支援物資の中継基地となり、また、当園の職員も被災した施設への人的支援を行った。次に挙げられるのは、福祉関係者を震撼させた殺傷事件だろう。神奈川県相模原市の知的障害者福祉施設で7月26日未明、元職員の男が刃物を持って侵入し入所者19人を刺殺し、入所者と職員の計27人に重軽傷を負わせた。この事件により、当園でも防犯対策委員会を立ち上げ、不審者に対する対応について、近くの警察署より講義や実演をお願いした。また、防犯に対してマニュアルを作成した。最後に挙げられるのは、嬉しいニュースとして南米大陸で初めて開かれた、第31回夏季五輪リオデジャネイロ大会ではないだろうか？日本は史上最多のメダル41個（金12、銀8、銅21）を獲得し、金メダル数で世界6位、メダル総数で同7位となった。

さて、厚生労働省より平成30年度に向けた障害福祉計画及び障害児福祉計画に係る基本指針の見直しがだされた。主なポイントとして「地域における生活の維持及び継続の推進」「精神障害に対応した地域包括ケアシステムの構築」「就労定着に向けた支援」「障害児のサービス提供体制の計画的な構築」「地域共生社会の実現に向けた取り組み」「発達障害者支援の一層の充実」が上げられ、その他にも障害を理由とする差別解消、障害者虐待の防止、擁護者に対する支援、難病患者への一層の周知等、施設から地域へと動きが大きくなってきている。

そんな中、園での運営方針では1、利用者の長期入院ゼロ 2、職員の離職者ゼロ 3、経営への無関心ゼロ、が打ち出され、職員全員にて次の1、利用者の長期入院対策 2、ゆうかり医療療育センターとの連携 3、生活介護支援センター利用者の確保、に取り組んだ。長期入院ゼロに対しては、長期入院の原因となっている誤嚥性肺炎の予防のひとつである口腔ケアに取り組み、全職員で経営・運営に対しても学習した。

また、平成30年の報酬単価見直しに向けて、職員の業務量、ケア量に対し人員配置の適否・ケア内容の現状と将来・業務量の現状と将来を含む諸課題を整理し、今後の障害者支援施設の在り方を考える基礎データとするとともに、政策提言につなげるためタイムスタディを実施した。

千歳・第二千歳に分かれたことや、ご家族の高齢化に伴い役員改選が必要になったこと、千歳療護園・第二千歳療護園の家族会会則にも見直しが生じたことなどから、家族会総会を開催した。内容については、預り金に関する提案、防犯対策について、協力医療機関の追加について、役員改選について、家族会会則改正について、事業者からの契約解除について報告し、ゆうかり学園創立 60 周年及び日野紀典生誕 100 年記念式典について説明した。

地域との交流として恒例となっている、今年で 31 回になる盆踊り・花火大会は、盛大な花火にて幕を閉じたが、10 月に行われている大運動会は雨天のため、各施設・寮にてレクリエーションとなり、千歳・第二千歳合同で、千歳の食堂を中心に車椅子リレーや職員のリレーにて盛り上がった。

総務部

<第二千歳療護園 経理・庶務課>

本年度の生活介護（日中支援）の利用人員は、延べ 10,455 名、定員の 97.7%で、入所支援（夜間）の利用人員は延べ 14,955 名で 102.3%の利用率であった。

内訳は 6 名の利用者様が延べ 271 日間の入院の他、外泊日数は延べ 69 日間となっている。入院日数や外泊日数を除くと実利用者数は延べ 14,615 名で 97.7%の充足率となった。

短期入所の利用は年間延べ 63 名で、日中一時支援の利用はなかった。

平成 29 年 3 月 31 日現在の入院者数は 1 名である。

（平成 29 年 3 月 20 日、死亡退所 1 名）

平成 29 年 3 月 31 日現在の定員数は 40 名である。

本年度の利用者の地域別入退所者状況は別表（1）参照。

生活部

（1）生活援助課

（パートナー係）

個別支援計画のニーズを中心に、利用者様の立場に立った利用者様本位のサービス提供を基本において、月 1 回の自治会役員の方との話し合い（暖和会）や園長と

の懇談会、職員との懇談会、利用者様の話し合いの場（ちとせ会）を通して、利用者様の自主性・選択性・対等性を尊重しながらサービス提供を行ってきた。

利用者様のニーズとして最も多い外出行事に関しては、その月の誕生者を中心にゆめタウン久留米や吉井ユメマートへ買物を中心とした外出を毎月計画してきた。昨年度は午前中または午後からの外出を実施してきたが、利用者様からの希望にて外出先で昼食を食べ、食後にゆっくりと買い物を楽しんでいただく外出も計画し、利用者様も大変喜ばれていた。希望外出では森口博子のコンサートや身体障害者スポーツ大会に参加していただいた。誕生者外出や希望外出以外にも、日中活動委員会を中心に、午後からの1時間程度でドライブ外出や紅葉見学などを27回実施し、延べ63名の方が参加された。また、有償の外出サービスを利用される方も増えてきており、利用者様から利用の希望が出た時には事業者との連絡調整を行ってきた。

日中活動として午後よりビデオ視聴やカラオケ、月1回のレクリエーション、書初めや壁面飾りなどの制作活動等を実施してきた。また日中活動と並行してケース担当者が担当利用者様とマンツーマンで居室整理や運動公園への散歩、テレビゲームや塗り絵、オセロなどを個別活動として行い、日中活動の充実を図ってきた。

月1回の生け花では季節の美しい花を生け、千歳、第二千歳に飾っている。ネイルアートでは1回に4名程度と少人数ではあるが、爪を鮮やかな色彩で飾っていただいた利用者様は、皆とても嬉しそうな笑顔をみせていた。理容師による出張散髪以外にも2月より美容師の方にも月1回来ていただけることとなり、女性利用者様を中心に毎回4名程散髪を行って頂いた。

今年度は4月14日と16日の夜間に熊本県、大分県で大きな地震が発生し、その影響で施設も大きく揺れ、利用者様も不安な夜を過ごしている。地震直後よりゆうかり学園が支援物資の集積地となり、千歳の職員も支援物資の運搬や被災者のリフレッシュ事業、被災した熊本県のくまむた荘への人的派遣を実施してきた。また神奈川県津久井やまゆり園では元職員が43名の利用者様を殺傷するという傷ましい事件が発生しており、防災と防犯について見直す一年でもあった。これからも利用者様のニーズに耳を傾け、その実現に向けて各部署、千歳療護園と連携を図りながら利用者様が安全で安心して生活できるようサービスの提供を行っていききたい。

☆ 週生活表は別表（2）、年間実施行事は別表（3）の通りである。

（サポート係）

施設入所支援 40名、生活介護 40名、短期入所 2名。現在、男性 23名、女性 17名（死亡退園 1名）（最少年齢 30歳、最高年齢 84歳、平均年齢 55歳）の方の日常の

生活介護・精神的支援、個別のニーズに添った支援を行った。

今年度も、サービス管理責任者を中心に、利用者様の自立支援を目標に、ケアプランの作成・実施・検討を行いながら日々の支援を行った。

今年度、第二千歳療護園は開設3年目を迎え、利用者様の平均年齢も55歳を超え、加齢に加え身体の機能低下も著しく見られ、介護を必要とする場面が今まで以上に多くなって来ている。また、慢性疾患・誤嚥性肺炎等での入院も多くなってきており、健康維持(誤嚥性肺炎予防)を目的とした口腔ケアの実施を、利用者様の同意を得た上で取り入れた。まずは誤嚥性肺炎での既往歴のある方を対象とし、夜間帯での細菌の増殖を防ぐため、夕食後に手作りの洗浄キッドを使用した洗浄・マッサージを行った。また、ゆうかり学園から歯科衛生士を招き、口腔ケアの講習会を実施する予定だったが、感染症拡大防止の為延期した。

全職員が利用者様への統一した支援を行う事を目的とした「第二千歳療護園サービス提供マニュアル」の見直し・作成を行った。ケアガイドライン(身障協より)に沿ったサービス提供ができるよう、支援グループリーダーを中心に全職員にて、基本となる入浴・食事・排泄・衛生管理のマニュアルを作成した。

権利擁護・障害者虐待防止法・障害者差別解消法についても、入浴場面では同性介助が出来ているが、排泄場面では職員配置など困難な時間帯もあるため、インカムの使用も昨年度から継続している。また、QC手法を用いた活動でも、課題である同性介助に向け取り組んだ。完全な同性介助は困難だが、人間としての権利を少しでも尊重できるよう、今後も権利擁護委員会を中心に取り組んでいく。

個別支援への取り組みについて、日中活動委員会では、『利用者様の充実した日中活動を支援する』をテーマに、継続的に計画・支援を行なった。活動の内容は①個別活動については、個々のニーズに対応できるよう、担当支援員とのマンツーマンの時間を設定し、気分転換の散歩、居室整理、パソコン教室等、個々のニーズに応えた。②レクリエーション③ドライブ外出も1時間程度のものだが、「気分転換が出来た」「リフレッシュ出来る」「また行きたい」と好評を得た。その他に関しては、④文化的制作活動、⑤ビデオ視聴、⑥カラオケ、⑦自治会活動(話し合い)、⑧誕生者外出、⑨希望外出(買物・食事・催物見学)等行なった。また、⑩生け花・ネイルボランティアなど地域との交流も深めながら、利用者様の個別支援の充実を図り、自己実現を支援するよう努めた。

今後も多様化してくる利用者様のニーズに応えるべく、全職員で支援に取り組んで行きたい。

(2) 訓練援助課

第二千歳療護園においては、利用者様 41 名（男性 23 名・女性 18 名（3 月死亡退園者 1 名含む））に対し、作業療法士 1 名・機能訓練員 1 名で訓練を実施した。

利用者様一人あたり一回の訓練時間を 40 分とし、身体状況によって週 1～2 回実施。個別に関わり、状況に応じて居室を使用し、充実した訓練内容となるよう援助を行った。

訓練内容については、利用者様の状態に伴い、主に体力・筋力・バランス能力の回復や維持、残存機能の回復や維持、関節可動域の維持、拘縮の予防、痛みの軽減等を目的とし、日常生活に対する意欲向上のため実施している。また利用者様の希望に沿い、スキルスクリーンや塗り絵等の制作活動やバッティング、キャッチボールといった体を使った活動、オセロやトランプ、パソコン（インターネット検索）等の趣味活動、散歩（屋内外）といったことも行っていくことで、機能面のみでなく、精神面へのアプローチにも繋げ、気分転換や訓練時間をより楽しいものと感じてもらえるよう関わっている。そして利用者様の日常生活にとって少しでも刺激となり、環境の変化や意識（意欲）等の変化にも繋がるように心掛けている。実施内容については下記の通りである。

また例年に引き続き、車椅子管理をはじめ、補装具の交付手続き 2 名、交付申請中 2 名、修理申請手続き 5 名、福祉用具購入 6 名等についても実施した。

(訓練内容)

- 関節可動域訓練
- 体力、筋力、バランス能力訓練
（腕立て、腹筋、背筋、スクワット、バンド等）
- 巧緻動作訓練（紐通し、パズル、はめ絵、塗り絵、折り紙等）
- 姿勢保持訓練（立位、座位バランス等）
- 日常生活動作訓練（車椅子移動、移乗動作等）
- 歩行訓練（歩行器歩行）
- 趣味活動（スキルスクリーン制作、バッティング、ゲーム、パソコン等）
- リラクゼーション（上田法、マッサージ、プロンキーパー等）
- 電動車椅子操作練習

(3) 生活部相談援助課

《概況》

平成 28 年度は 4 月に発生した熊本地震により、熊本県と大分県地域に甚大な被害をもたらした。当園でも震災直後から支援物資の搬送、人的支援、リフレッシュ支援と東日本大震災の支援経験を生かし迅速な取り組みを行った。

相談援助課は、両施設兼務での業務を継続した。一般生活援助業務（食事、入浴、排泄、移動等）で関わりを深めながら利用者様お一人おひとりの一日の生活の流れ、身体面、精神面、対人面などを把握することに努めた。また、利用者様一人ひとりと個別活動や集団活動を通してコミュニケーションを図り、更なる信頼関係の構築にも努めた。

さらに、情緒の安定を目的として行ってきた読み聞かせの活動を継続し、前頭前野の活性化を図るためにカードのインプット等にも取り組んだ。

また、散歩をするには絶好の環境であるため、気分転換・ストレス解消・地域の多くの方との触れ合い等を目的に敷地内や隣接の運動公園で活動を行った。

利用者様も個室生活に慣れてきたと思われるが、孤独感を感じさせないように各居室に出向いた折に、以前以上にコミュニケーションを密にとるような配慮も継続した。

(援助内容)

- ① 面談活動（カタルシス）
- ② 散歩療法（発散、リフレッシュ）
- ③ 表現療法（遊び活動、自己表現、生きがい、興味拡大、信頼関係）
- ④ ポジショニング（リラクゼーション、慢性痛の軽減、QOL の拡大等）
- ⑤ 前頭前野活性化法（読み聞かせ、公文カード、ドリル等）
- ⑥ 介護全般
- ⑦ メンタルヘルス（ドライブ外出、カウンセリング）
- ⑧ 環境整備、その他

(4) 生活部看護課

利用者様は千歳療護園と同じ傾向にあり、健康管理と衛生管理を行い、サービス向上に努めている。

《平成 28 年度》

① 委託入院	田主丸中央病院	15 件
② 医療的ケア	経管栄養（胃瘻）	2 名
	吸引	1 名
	吸入	2 名
③ インフルエンザ予防接種		40 名

④ 第二千歳療護園 年齢別入所者数 平成 29 年 3 月 31 日現在

年齢	30 歳未満	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	計
利用者数	0	1	9	16	8	6	40
%	0	2	23	40	20	15	100

⑤ 第二千歳療護園 病類別入所者数 平成 29 年 3 月 31 日現在

病 名	人数	病 名	人数
脳性麻痺	31	脳梗塞後遺症	1
先天性骨発育不全症	1	頭部外傷後遺症	1
高血圧性脳出血	1	糖尿病	1
脳炎後遺症	1	脳出血後遺症	1
白内障術後無水晶体眼・左眼球萎縮	1		
クーゲルベルグ・ヴェランダー病	1		

別表 (1)

地域別入退園者状況表

平成 28 年度

	区分 福祉名	前年度末 人員	本年度 入所人員	本年度 退所人員	本年度末 人員	性 別		備 考
						男	女	
町 村 福 祉 関 係	志 免 町							
	上 陽 町							
	大 木 町	2			2	1	1	
	大 和 町							
	那 珂 川 町							
	星 野 村							
	矢 部 村							
	苧 田 町	1			1	1		
	筑 前 町	1			1	1		
	福 智 町	1			1		1	
小 計	5			5	3	2		
市 福 祉 関 係	福 岡 市	5			5	3	2	
	北 九 州 市	1			1	1		
	大 牟 田 市	2		1	1		1	
	久 留 米 市	9			9	5	4	
	直 方 市							
	飯 塚 市	2			2	1	1	
	田 川 市							
	柳 川 市	1			1		1	
	宗 像 市							
	八 女 市	1			1	1		
	筑 後 市							
	大 川 市	1			1	1		
	小 郡 市	1			1		1	
	筑 紫 野 市	2			2	1	1	
	春 日 市							
	大 野 城 市							
	糸 島 市							
	山 田 市							
	行 橋 市							
	豊 前 市							
中 間 市								
古 賀 市								
う き は 市	4			4	2	2		
朝 倉 市	4			4	3	1		
み や ま 市	3			3	2	1		
福 津 市								
小 計	36		1	35	20	15		
県 外	鳥 栖 市							
	日 田 市							
	佐 賀 市							
	佐 賀 中 部							
	小 計	0	0		0	0	0	
合 計	41	0	1	40	23	17		

別表 (2)

週 生 活 表

第二千歳療護園

曜日	月	火	水	木	金	土	日
時間							
6:30	起床						
8:00	着替・洗面・移動 朝食						
9:00	移動・排泄・歯磨き (朝礼・申し送り) (寝具交換・掃除)						
9:30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	園長懇談会
10:30	訓	訓	訓	訓	訓	訓	
11:00	練	練	練	練	練	練	
12:00	昼食 移動・排泄・歯磨き						
13:30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	
14:00	訓	訓	訓	訓	訓	訓	
15:00	練	練	練	練	練	練	
16:00			暖和会				
16:20							
17:00	※ 入浴は、千歳と第二千歳を1ヶ月交代で午前と午後を入れ替えて実施 夕食						
18:00	歯磨き(自立者一部)、後片付け、排泄						
19:00	着替え、自由時間						
20:00	歯磨き(介助者)						
21:00	歯磨き(自立者)						
21:00	消灯						
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 月曜日 ビデオ視聴・個別活動・製作活動・ドライブ外出・レクリエーション(月～土) ○ 火曜日 利用者買物(隔週) ネイルボランティア(毎月1回) ○ 水曜日 誕生者外出、療育会議(外部講師・カンファレンス・園長講義) 暖話会(第2週) ○ 木曜日 誕生者外出、ちとせ会・職員懇談会(第2週) 午後カラオケ ○ 金曜日 ビデオ視聴・個別活動・製作活動・ドライブ外出・レクリエーション ○ 土曜日 利用者と園長懇談会(最終土曜日)、生け花(第3週) ○ 月行事 体重測定(千歳:第一日曜 第二千歳:第二日曜日)、出張散髪(最終月曜日) ○ 隔月 防災教育、避難訓練、味彩クラブ(給食会議) 						

別表 (3)

年間実施行事記録表

平成 28 年度

月	日	行 事 等	月	日	行 事 等
4	7	開園記念行事	10	15	生け花
	23	生け花		16	運動会中止(室内レクリエーション)
	26	ネイルボランティア		☆誕生者外出	
		☆誕生者外出 AM・PM(13日、21日、22日) PM(28日)		AM・PM(26日、27日) PM(31日)	
5	2	★サニックスワールドラグビー観戦	11	19	☆紅葉見学 生け花
	8	★身体障害者スポーツ大会		24	☆紅葉見学 ネイルボランティア
	21	生け花		16	☆誕生者外出
	26	ネイルボランティア ☆誕生者外出 AM・PM(30日)		AM・PM(9日、21日) PM(10日)	
6	18	生け花	12	15	浮羽消防署指導避難訓練・餅つき慰問
	21	ネイルボランティア		17	生け花
	22	合同レク大会		20	ネイルボランティア
		☆誕生者外出 PM(9日)		22	忘年会 ☆森口博子コンサート
7	8	ナイター観戦	1	17	ネイルボランティア
	16	生け花		21	生け花
	21	盆踊り花火大会		☆誕生者外出 AM・PM(26日)	
	23	ネイルボランティア			
8	20	生け花	2	18	生け花
	25	納涼祭		21	ネイルボランティア
	30	ネイルボランティア		22	防災教育
		☆誕生者外出 AM・PM(18日、24日) PM(10日)		☆誕生者外出 AM・PM(23日)	
9	3	ブリヂストン K2 バンド	3	18	生け花
	13	ネイルボランティア		21	ネイルボランティア
	17	生け花		☆誕生者外出	
		☆誕生者外出 AM・PM(28日)		AM・PM(10日、22日) PM(9日、24日)	

(参) 実習生受け入れ状況

* 介護等体験実習

大 学 名	実習期間	人数
久留米大学	5日間×1名	5名
福岡大学	5日間×2名	10名
福岡教育大学	5日間×1名	5名

専門学校名	実習期間	人数
九州大谷短期大学	22日間×1名	22名

◎ 延べ人数 42名

別表(4)

日常生活動作の介護状況

生活動作	区分	男	女	計
食 事	自 立	2	1	3
	一部介助	11	10	21
	全介助	10	6	16
起 坐	自 立	8	4	12
	一部介助	1	3	4
	全介助	14	10	24
立ち上がり	自 立	3	2	5
	一部介助	4	2	6
	全介助	16	13	29
排 泄	自 立	1	1	2
	一部介助	7	3	10
	全介助	15	13	28
更 衣	自 立	3	3	6
	一部介助	5	1	6
	全介助	15	13	28
入 浴	自 立	0	0	0
	一部介助	3	1	4
	全介助	20	16	36
歩 行	自 立	1	0	1
	一部介助	1	3	4
	全介助	21	14	35
寝返り	自 立	10	6	16
	一部介助	2	1	3
	全介助	11	10	21
車椅子使用	自 立	4	2	6
	一部介助	7	7	14
	全介助	10	7	17

生活動作	区分	男	女	計	
夜間処遇	排便排尿	1回	3	4	7
		2回	5	7	12
		3回	8	5	13
		4回	5	1	6
		計	21	17	38
	服 薬	1回	12	10	22
		2回	8	7	15
		3回	0	0	0
		計	20	17	37
	体位変換	1回	1	0	1
		2回	0	0	0
		3回	0	2	2
		6回	0	1	1
計		1	3	4	
おむつ使用	昼・夜	14	8	22	
	夜間のみ	1	3	4	

- ・ 食事⇒配膳された状態で、魚の骨取りも含む。
- ・ 排泄⇒排泄後の処置、女性は生理処理も含む。
- ・ 更衣⇒ホックなど、着脱が行ない易く改良した衣類を使用して。
- ・ 入浴⇒一部自立とは、浴槽の中に独力で入っていることが出来たり、洗体の一部が出来る事。

久留米市小児慢性特定疾病児童等自立支援事業

〈概況〉

慢性的な疾病にかかっていることにより、長期にわたり療養を必要とする児童等の健全育成及び自立促進を図るため、児童等及びその家族からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行い、関係機関との連絡調整を行うため、久留米市より委託された事業。

- ・実施期間 平成 28 年 7 月 1 日～
- ・看護師 2 名、社会福祉士 1 名の 3 人体制
- ・相談事業、10 月・11 月の更新申請の受付期間（各月 4 日間、8 日間）では、104 名の対象者と個別面談（支援員 2 名配置）その他に電話相談 2 件
- ・ピアカウンセリングを 1 月「小児がん」、2 月「超重症児」について実施、時期的に参加者が各 2 名と少なかったが、参加者全員が話をする時間が取れ、和やかな雰囲気で行うことができた。
- ・その他 自立支援員の質向上を図るため研修に参加
 - 小児在宅医療シンポジウム～医療的ケア児とレスパイト～
 - 重症心身障害児者等コーディネーター育成研修
 - 県内の自立支援員の定例会に参加、情報交換を行う
- ・まとめ 小児慢性特定疾病の対象者は、疾患や障害の程度が多岐にわたるため、相談内容もさまざま、家族の不安や負担を軽減することができるシステムもまだ確立されていない状態である。今後の取り組みとして、自律支援員の自己学習、県内の自立支援員との情報交換、相談支援マニュアルの作成、対象者、各関係機関への周知、PR 活動等を行い、対象者にとって継続して支援を受けられるように努めていきたい。

久留米市東部障害者基幹相談支援センター

〈概況〉

久留米市東部基幹相談支援センターは、平成 28 年 7 月に久留米市より受託を受け基幹相談事業を展開した。

基幹相談では、相談支援事業所に対してサービス等利用計画作成についての助言、個別支援会議への同行、新規ケースの福祉サービス利用に向けての助言を行なった。サービス等利用計画推進においては、計画依頼が可能な相談支援事業所と連携を取りながら計画相談推進を進めた。11 月から久留米市障害者福祉課と連携しながら、相談支援事業所へ訪問し困難ケース等の事例検討を実施した。

また、西部、北部、南部基幹相談支援センター連携のもと、講演会、強度行動障害研修等の企画、運営を行った。

地域づくりの取り組み、情報の発信の中では、7 月に基幹相談センターのホームページの開設、3 月に機関誌の発行を行なった。

委託相談では、担当の東部地区である山川、山本、草野、善導寺、大橋、船越、水縄、田主丸、水分、竹野、川会、柴刈の各小学校区や市外・県外の相談者に対して基本相談を行なった。相談内容は、福祉サービスや計画相談の利用相談や、家族、人間関係についての相談、療育手帳や障害者手帳の申請の支援、虐待や権利擁護等についての相談があり、相談の範囲は多岐にわたっている。相談対応としては、電話相談、来所相談、訪問や同行、関係者会議や個別支援会議への出席がある。相談を実施する中では、障害当事者のみならず、その家族の支援を含め総合的な相談対応が求められることが多い。行政はもとより、相談支援事業所や福祉サービス提供事業所などの福祉、病院や医療機関や訪問看護等の医療、地域包括支援センターや介護保険サービス事業などの介護、学校や保育所など教育現場との連携や情報共有・協働を行った。

《相談件数》

総合的・専門的な相談支援

延べ相談件数（件）		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		54	88	87	83	107	105	102	109	146	881
相談方法	訪問	5	9	8	9	4	8	13	11	12	79
	来所相談	9	5	9	5	8	12	15	4	13	80
	同行	2	8	3	0	15	5	2	6	5	46
	電話相談	22	42	48	42	59	51	47	57	56	424
	電子メール	0	12	8	6	1	7	3	7	2	46
	個別支援会議	3	3	3	5	5	6	9	6	9	49
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	41	79	79	67	92	89	89	91	97	724
相談内容	福祉サービス利用等	21	33	45	30	54	49	51	47	70	400
	障害や病状の理解	3	5	6	11	4	7	5	5	17	63
	健康・医療	0	1	0	3	3	3	2	4	11	27
	不安の解消・情緒安定	9	16	10	14	9	12	13	9	5	97
	保育・教育	4	0	3	2	2	6	4	5	2	28
	家族関係・人間関係	2	11	4	6	19	5	5	4	9	65
	家計・経済	6	1	2	2	2	1	2	5	5	26
	生活技術	2	3	0	0	0	0	2	2	7	16
	就労	0	7	1	3	6	9	4	18	18	66
	社会参加・余暇活動	0	0	3	11	8	12	10	10	1	55
	権利擁護	0	0	0	0	0	0	4	0	0	4
	その他	7	6	6	0	0	1	0	0	1	21
	住宅	0	5	7	1	0	0	0	0	0	13
	合計	54	88	87	83	107	105	102	109	146	881

実相談人数（人）			7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		障害者	13	15	14	21	21	19	22	22	21	168
		障害児	9	3	7	4	4	8	6	8	4	53
		合計	22	18	21	25	25	27	28	30	25	221
障害種別	身体障害	障害者	7	8	7	7	6	6	10	10	8	69
		障害児	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2
		合計	8	8	7	8	6	6	10	10	8	71
	重症心身障害	障害者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		障害児	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2
		合計	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2
	知的障害	障害者	5	5	1	9	9	6	8	8	7	58
		障害児	4	2	2	1	2	2	1	2	1	17
		合計	9	7	3	10	11	8	9	10	8	75
	精神障害	障害者	3	6	6	11	11	11	10	11	12	81
		障害児	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
		合計	3	6	6	11	11	11	10	12	13	83
	発達障害	障害者	0	1	2	1	1	0	1	2	1	9
		障害児	7	2	6	2	3	8	6	6	3	43
		合計	7	3	8	3	4	8	7	8	4	52
	高次脳機能障害	障害者	0	0	0	0	0	1	1	1	1	4
		障害児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		合計	0	0	0	0	0	1	1	1	1	4
	難病	障害者	0	1	1	0	1	1	2	3	2	11
		障害児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		合計	0	1	1	0	1	1	2	3	2	11
	その他	障害者	2	1	0	1	0	0	0	0	0	4
		障害児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		合計	2	1	0	1	0	0	0	0	0	4

関係機関との連絡・調整

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
行政機関	4	22	19	17	7	16	31	31	44	191
就労機関	0	14	7	5	11	1	1	3	0	42
医療機関	4	5	1	17	17	29	34	34	51	192
福祉サービス事業所	7	24	40	14	47	20	37	29	35	253
居宅介護事業所	3	0	1	5	0	2	1	0	4	16
地域包括支援センター	4	1	0	0	1	3	0	0	1	10
相談支援事業所	14	31	26	50	71	37	65	76	86	456
教育機関	0	3	0	1	1	0	1	1	0	7
成年後見関係	1	0	0	0	0	2	2	1	0	6
住宅関係	0	4	5	0	0	0	0	1	1	11
療育機関	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
発達障害者支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
その他	6	7	6	0	3	3	5	0	16	46
合計	43	111	105	109	158	114	177	176	239	1,232

《出張》

平成 28 年度福岡県相談支援従事者初任者研修

(北九州市ウェル戸畑 7/13, 14 ももち浜SRPホール 7/29 9/8, 9)

九州身体障害児者施設研究大会 (ホテルセントラーザ博多 9/8, 9)

八女筑後地相談支援従事者研修 (ピーポート甘木 9/15)

九州地区障がい者相談支援事業合同研修会 (宮崎観光ホテル 12/8, 9)

福岡県相談支援従事者現任者研修 (基幹・委託コース)

(福岡市立心身障がい福祉センター 10/21, 22, 24)

福岡県相談支援従事者研修 (専門コース別研修 重心) (吉塚合同庁舎 1/18, 20)

《今年度参加会議・研修》

久留米市障害者基幹相談支援センター運営会議 (36回)

久留米市相談支援事業所連絡会<くるめ相談ネット> (月1回)

久留米市地域生活支援協議会ワーキング会議 (14回)

どうなるの!? 障害者総合支援法総合支援法三年後の見直し

(久留米市役所くるみホール 7/25)

「わがごと・丸ごと」地域共生社会本部 野崎伸一氏と語り合おう

(えーるピア久留米 9/1)

相談支援専門員勉強会（全4回）（総合福祉会館 9/6, 20 10/4, 25）
第2回相談支援専門員勉強会（全3回）（総合福祉会館 11/8, 22 12/13）
相談支援ネットワークふくおか世話人会（上毛町 11/22）
久留米市中学校養護教諭研究会（えーるピア久留米 11/17）
障害者シンポジウム（久留米シティプラザ 11/23）
強度行動障害 基礎研修（ゆうかり医療療育センター 11/24, 25）
強度行動障害 実践研修（ゆうかり医療療育センター12/6 久留米教育センター
12/9）
第2回八女筑後・久留米圏域情報交換会（サンライフ久留米 1/20）
市内地域包括センターとの情報交換会（久留米市役所 2/14）

委員会報告

- 苦情解決委員会・虐待防止委員会
- 安全管理委員会
- 防災対策委員会
- 院内感染対策委員会
- 衛生委員会
- 広報委員会
- 療育会議運営委員会
- 福祉 QC 委員会

苦情解決委員会・虐待防止委員会

《概況》

平成 28 年度苦情解決委員会は、施設ごとの定期委員会において、苦情・要望への対応・調整・解決等に取り組んだ。その取り組みを利用者・保護者とのコミュニケーションの機会あるいは職員のサービス内容・サービス提供のあり方等の修正・改善・点検の手掛かりとしても活用した。

法人委員会としては、療育会議において、年 2 回の外部講師による人権研修会、12 月の第三者委員への報告会と療育会議にて虐待防止研修会、2 月の職員報告会を行った。特に第三者委員への報告会においては、守秘義務に配慮した上で苦情・要望記入票等を事前に第三者委員へ送付し、吟味して頂いた上で報告会を開催した。職員の接遇についての苦情に対しては、管理職や中堅職員が見本となり、指摘しあえる職場風土をつくらなければならない、また、接遇の苦情が出ない様、目標を立てるように指導をうける。

《苦情・要望件数》 ー平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日ー

	ゆうかり	耳納学園	千歳・第 2 千歳療護園
1. 職員の言動・対応等に対する苦情	0	2	1
2. 施設への要望・苦情	3	1	4
3. 利用者様から利用者様への苦情	0	0	1
4. 保護者（後見人）よりの苦情・要望	1	0	0

《基本的取り組み内容及び状況》

法人各施設は利用者の心身の状態、年齢、施設機能により、苦情・要望の訴え方、内容、件数に違いがあるが、取り組みの過程でそれぞれ継続した課題を有している。

ゆうかり医療療育センターでは、各寮で権利擁護専門委員会が活動しているが、利用者様の虐待防止、権利擁護の意識の向上につながっている。

苦情・要望では、施設内の環境や設備に対する要望が 3 件あった。中でも、職員紹介の写真を各寮の入り口に掲示した。そのことが、コミュニケーションの話題づくりとなったが、反面、自身の言動にも責任を持たなければならないという緊張感にもつながっている。また、虐待防止のための自己チェックを行い、福祉施設職員としての認識の向上に努めた。

千歳療護園・第二千歳療護園は移転してきて、2 年数か月が過ぎた。利用者様も全室個室となり、最初は戸惑いや不安もあったと思うが、最近では生活にも慣れ、落ち着いた様子が見受けられる。職員に関しては業務の流れもスムーズなり、時間的ゆとりの中で支援ができてきたと思える。しかし、そのゆとりの中で緊張感が失われ、「慣れ」が生じ、職員の不適切な言動を誘発する環境を作ってしまう、その

結果として利用者様に不快感や不満を抱かせる事になってしまった。

我々職員は、利用者様に支援する際、安全・安心であり、かつ快適な生活を送って頂くサービスを提供していることを忘れず、常に利用者様に対する権利擁護の意識をもち、更にはその意識を高めていかなければならない。虐待防止委員会は3月と9月に委員会を実施し、身体拘束の評価、見直しを行っている。

耳納学園では、利用者様とコミュニケーションを取りながら、速やかな対応を心掛けニーズに応えているが、職員の接遇に対する苦情があった。

福祉施設職員として、一人ひとりが初心に戻り、自身の言動には細心の注意を払い、権利擁護の意識を常に持ち続け、利用者様が気軽に相談できるように努めていきたい。

安全管理委員会

《概況》

当委員会は、利用者様と職員が安全、かつ安心な生活、又高度な医療を受けられるよう環境を整え、利用者様本位のサービスの質の向上を重点課題とし、医療・介護・療育場面における事故防止を図る事を目的とし、各施設においてそれぞれの活動を行った。職員より提出されたインシデント報告、及びアクシデント報告書の評価を行い、事故防止対策の具体的内容について検討し、再発防止、未然防止につとめた。法人全体においては、11月に研修会、2月に職員への報告会を実施し、安全管理に対する意識向上を図った。

《具体的取り組みと事故発生状況》

[ゆうかり]

*毎月開催の委員会にて、各寮、及び各部署から提出されたアクシデントの発生状況についての分析と問題点を検討、又各寮、各部署のインシデントの活用状況についての報告を行い、職員の安全に対する意識を高めた。

(事故報告件数)

転倒、転落・・・18件	外傷・・・63件	与薬関係・・・51件
注入カテーテル関係・・・63件	その他・・・51件	
合計・・・246件		

[千歳]

*外傷事故としては3件発生しており、その内2件が骨折事故となっている。骨

折事故の内1件は外泊中の事故で、もう1件は園内で起きている。この件に関しては行政に報告書を提出した。

(事故報告件数)

転倒・・・5件 外傷・・・3件 誤薬・・・1件 その他・・・4件
合計・・・13件

[第二千歳]

*視覚障害のある利用者様が、居室内で転倒、胸椎圧迫骨折の事故が発生し、行政へ事故報告書を提出した。

(事故報告件数)

転倒、転落・・・4件 外傷・・・1件 誤訳・・・1件
合計・・・6件

[耳納]

*利用者様と共に事故防止の意識向上を目指してきたが、前年度を上回る事故件数が発生しており、その殆どが転倒事故であった。高齢化に伴う体力の衰えを考慮した対応の必要性を感じた。

(事故報告件数)

転倒・・・12件 与薬ミス・・・1件
合計・・・13件

防災対策委員会

《概況》

社会福祉施設においては、各種の災害時の際に特に配慮を要する利用者様が入所されており、その防災対策を確立することが強く要請されている中、当委員会ではより良い防災対策を確立することを目的に活動を行った。その中でも火災時の対策に重点をおき、各施設（耳納・千歳・ゆうかり）定期的に避難訓練を実施し、常日頃から職員及び利用者様の防災に対する意識向上を図った。又、地震災害・風水害等の自然災害にも対応できるようにマニュアルを作成した。

平成28年7月に起きた神奈川県相模原市の障害者支援施設での事件から、防災対策委員会の下部組織に防犯対策委員会を設立し、防犯対策にも取り組んでおり、各施設における防犯マニュアルを作成した。

毎年開催されている浮羽消防署管内の屋内消火栓・消火器操法大会にも出場して

おり、消火栓の部にゆうかり学園から3チーム、消火器の部に千歳療護園から1チームが出場した。

《避難訓練実施状況》

(耳納学園)

2回実施 日勤時想定避難訓練・ゆうかり学園合同夜間想定総合訓練

(千歳療護園)

3回実施 日勤時想定避難訓練・ゆうかり学園合同夜間想定総合訓練

(ゆうかり学園)

2回実施 日勤時想定避難訓練・ゆうかり学園合同夜間想定総合訓練

毎月1回各寮別に実施

院内感染対策委員会

《概況》

利用者様が安全・安心に過ごして頂くために、感染防止の基本的知識を理解し、科学的根拠にもとづく日常の感染防止対策、アウトブレイク時に迅速な対応ができるよう、年2回全体研修会、月1回の委員会ではテーマに沿って情報提供、感染症マニュアルの見直しを行った。

月	内 容
4 月	平成 28 年度年間計画・委員会指針について
5 月	水痘について 手洗いパトロール
6 月	流行性耳下腺炎について
7 月	手足口病について
8 月	アデノウイルス感染症について
9 月	針刺し・噛みつき事故による感染症について 環境パトロール
10 月	インフルエンザウイルス感染症対策について
11 月	ノロウイルス感染症について
12 月	百日咳について
1 月	結核について
2 月	風疹について 手洗いパトロール
3 月	平成 28 年度感染症報告

開催日 毎月第 1 金曜日
開催時間 9 : 30 ~ 10 : 00
委員 所長他 13 名

11 月の全体研修会（院内感染対策委員による講義）

「冬に流行する感染症について」

- ・重症児・者の特徴
- ・冬に流行する感染症（インフルエンザ・ノロウイルスについて）
- ・手洗いについて
- ・手袋の使用方法
- ・ゆうかり学園における感染防止対策

2 月の全体報告会

- ・年間感染症の状況

ヒトメタニューモウイルス感染症 ともだち寮 8 月 2 名
下痢原性大腸菌腸炎 おひさま寮 4 月 5 月各 1 名 11 月 2 名
アデノウイルス感染症 なかよし寮 10 月 9 名
インフルエンザ A 型 なかよし寮 1 月 2 名
インフルエンザ B 型 なかよし寮 3 月 5 名

衛生委員会

《概況》

職場の衛生管理体制を整備確立するとともに、職員の健康保進を図り、明るく快適な職場環境を形成するために、月1回院内感染対策委員会と一緒に開催。年1回全体研修会を実施。

月	内 容
4月	平成28年度計画について
5月	食中毒対策
6月	腰痛対策
7月	ストレスチェックについて
8月	夏バテ対策
9月	サルコペニアについて
10月	悪玉コレステロール対策
11月	喫煙対策
12月	更年期対策
1月	疲れ目対策
2月	睡眠環境対策
3月	快適な職場環境とは

8月全職員対象にストレスチェック実施する。311名中269名受診（受診率86,5%）チェック用紙への記入ミスが含まれる。結果について同意しない職員が16%おり、産業医との面談に繋がらなかった。

広報委員会

《概況》

広報委員会は、広報紙の発行とホームページの管理を担っている。

広報紙は6月1日（50号）、10月1日（51号）、2月1日（52号）の年間3回発行し、委員7名で構成した編集会議は、施設内LANを活用して年間3～4回にとどめ、締め切り内に発行することが出来た。

ホームページに関しては、インフォメーションなど手軽に更新できるようにリニューアルしているが、更新数は多くない。

広報紙各号の内容および配布先や発行部数は、以下の通りである。

[発行内容]

- 第 50 号（平成 28 年 6 月 1 日発行） 表紙…ともだち寮
 - ・ 平成 28 年度社会福祉法人ゆうかり学園の取り組みについて…日野理事長
 - ・ こえだ物語 45（頼もしい未来の保育士さんたち、いろいろな学校から保育の実習に来ています）
 - ・ 今日の仲間 33（中学部、高等部計 6 名の入学者紹介）
 - ・ 施設だより（各施設・寮の行事紹介）、善意のかずかずや新人紹介他
 - ・ 27 年度事業報告、決算状況報告および 28 年度事業計画の報告記事
- 第 51 号（平成 28 年 10 月 1 日発行） 表紙…なかよし寮
 - ・ 相模原の事件について思うこと…日野事務局長
 - ・ こえだ物語 46（熊本地震支援員派遣、現地でみたもの感じたこと）
 - ・ 今日の仲間 34（耳納学園、千歳療護園、なかよし寮、支援センターちとせの仲間）
 - ・ 施設だより（各施設・寮の行事紹介）
 - ・ ニュースやお知らせ、善意のかずかず、新人職員紹介他
- 第 52 号（平成 29 年 2 月 1 日発行） 表紙…千歳療護園
 - ・ 年頭に当って…日野理事長
 - ・ こえだ物語 47（飯田看護部長ねむの木賞を受賞、これまでの看護師経験を振り返って）
 - ・ 今日の仲間 35（ともだち寮、おひさま寮、第二千歳療護園、コアラ園の仲間）
 - ・ 施設だより（各施設・寮の行事紹介）
 - ・ ニュースやお知らせ、善意のかずかず、永年勤続表彰、新人職員紹介他

[配布先および発行部数]

- ◎学園関係（利用者様及び園内各部署、賛助会員様等に配布…500 部）
- ◎行政や地域、関連諸施設、学校などに配布（700 部）
- ◎1 回の発行部数は 1,300 部、年間発行部数は 3,900 部であった。

療育会議運営委員会

平成 28 年度 表の通り実施しました。

今年度の人権問題（外部講師）は、昨年に引き続き西尾紀臣様へ依頼し、9 月に『同和問題など身近な人権を考える』と題し、障害者施設 19 人殺傷事件より、一方

的に正義を振り回し多くの人を苦しめたそんな正義の味方にならないこと。本当の正義は優しさにある。というお話がありました。また、障害者施設 19 人殺傷事件があったということで、9 月にうきは警察署・竹野駐在所の警察官 3 名による防犯講習会を実施し、防犯面で注意することや不審人物防御棒の使い方の実技の講習を行いました。

今回、初めてソシオエスティックの江藤裕美様より、肌と肌の触れ合いの大切さのお話をさせていただきました。

今年度は感染症の影響も少なく、ほぼ予定通り実施できました。

(平成 28 年度) 療育会議実施 H28 年 4 月～H29 年 3 月

日付	会議名(担当)	司会	記録	準備・片付	日付	会議名(担当)	司会	記録	準備・片付
4/13	各施設・寮			耳納 給食 心理	10/12	運動会最終打ち合わせ			訓練
4/27	講義(理事長) 延期	吉田 康一	古矢 真由美		10/26	各施設・寮			
5/11	QC 発表会	古矢 真由美	片山 留美	ともだち 育成	11/9	安全管理研修会 感染症研修会	花田 正剛	大山 美佐	ともだち 看護
5/25	講義(理事長)	藤川 康文	米倉 美恵子		11/23	各施設・寮			
6/8	QC 発表会	片山 留美	片山 史人	おひさま 看護	12/14	虐待防止研修会	大山 美佐	山崎 幸盛	なかよし 看護
6/22	外部講師(ソシオ エスティック)	米倉 美恵子	城處 浩子		12/28	各施設・寮			
7/13	盆踊り準備			なかよし 育成	1/11	講義(局長)	山崎 幸盛	森岡 勝裕	おひさま 育成
7/27	各施設・寮				1/25	各施設・寮			
8/24	各施設・寮			千歳	2/8	報告会 (苦情解決・安全管 理・感染症委員会)	森岡 勝裕	永松 利枝子	耳納 給食 心理
8/31	衛生管理研修会 メンタルヘルス 研修会	片山 史人	内立 悟		2/22	各施設・寮			
9/14	外部講師(人権問 題)	内立 悟	花田 正剛	第 2 千歳	3/8	予備日			ともだち 育成
9/21	防犯講習会	藤川 康文	吉岡 小百合		3/22	各施設・寮			
9/28	各施設・寮								

※ 第 2 週目にできなかった場合第 4 週目に変更することがある。
 ※ 第 4 週目に講義および研修会が実施されることもある。(その場合の司会・記録は運営委員で実施)

福祉QC委員会

今年度、グループ編成を変更し各部署での活動になり3年が過ぎ、各グループが一回活動を実施したこととなる。やり易かったと言う意見があるもののテーマのマンネリ化が危惧されている。テーマの選定が、活動に大きく影響を与えるものであり、今後形にとらわれない自由な発想が重要視され、やり方としても人員の編成も各グループに任せ、やり易さを追求することで、活動の向上に繋がるとの意見も多い。まずはQC委員自身の活動に対する積極的なかかわりが大事であり、そこから新しい発想が生み出されるものと感じられる。

第27回「福祉QC」全国発表大会出場サークルについて

平成28年11月21日・25日（東京にて開催）

参加サークル

テーマ

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1、なかよし訓練部〔POSTまで〕 | 見て知ってわかってくれたら |
| 2、給食部〔まごころ届けたい〕 | ムセを少なくするために |

28年度 活動サークル

施設・部署名	サークル名	テーマ
千歳療護園	ピカリン	車椅子は何故汚れるのか？
第二千歳療護園	やまどり	同姓介助の実現に向けて
医療・外来	リベンジ隊	医療廃棄物を 正しく分別して出そう
訓練部	おひさまGO	居室外活動を増やそう
給食部	くすの木若葉	出し間違いを直そう
なかよし看護	スマイル	あなたの笑顔が見たくて
おひさま看護	つけるっ隊	感染症を含む消毒液の作り方を わかり易く表示しよう
ともだち看護	友スムーズ	注入者増加に伴った取り組み
ともだち育成	ハッピーターン	部屋からの大脱走

平成 27 年度 QC 発表

5 月 11 日発表

① おひさま看護

サークル名 知りたいつ隊
テーマ 利用者の状況を把握したい

② ともだち看護

サークル名 コストを減らし隊
テーマ ムダのない当て方

③ 第二千歳療護園

サークル名 まがりまめ 2
テーマ 余暇時間の充実をめざして

④ 耳納学園

サークル名 みのうとうきーズ
テーマ 保護者様の関わりを増やそう(展示会を通して)

6 月 8 日発表

① なかよし看護

サークル名 Happy New York
テーマ 安全な入浴介助をめざして

② なかよし訓練

サークル名 POST まで
テーマ 見て知って分かってくれたら

③ 千歳療護園

サークル名 心機一転 G
テーマ 日中活動の充実化(参加人数を増やそう)

④ 給食部

サークル名 まごころ届け隊
テーマ ムセを少なくするために